

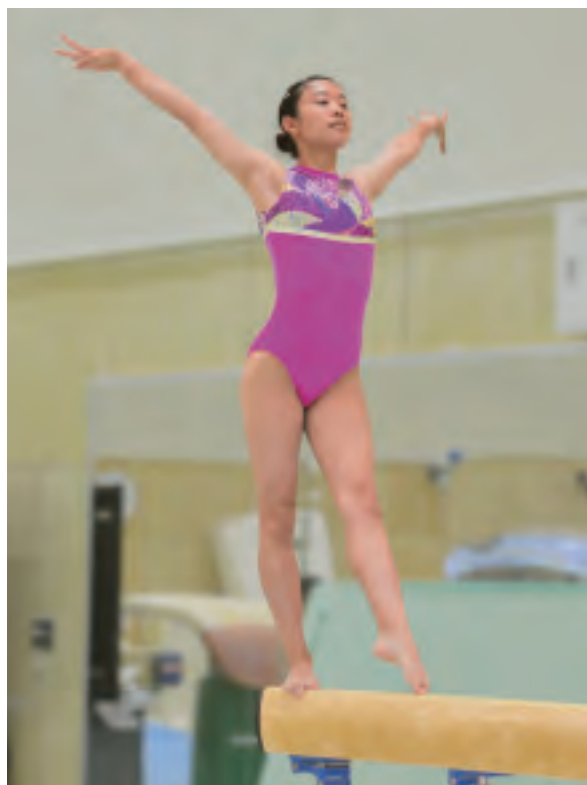
Tsukuba

COMMUNICATIONS

Autumn

VOL.
25

筑波大学広報誌
ツクコム 2014

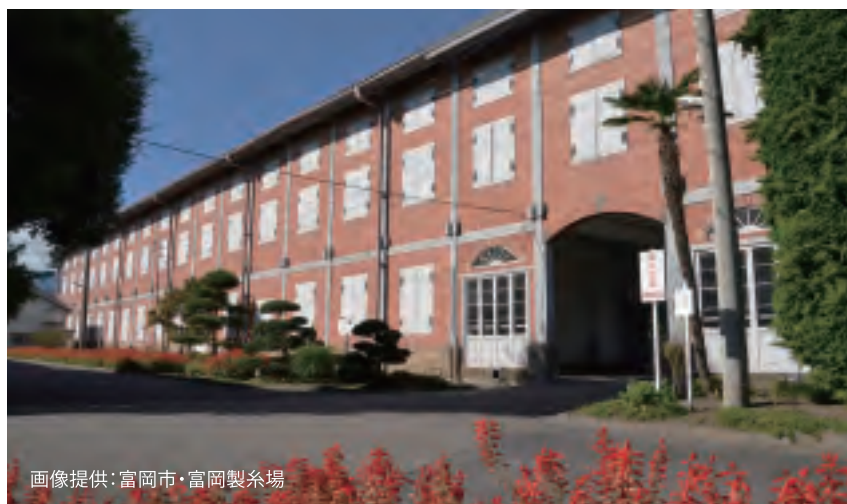


対談
ブレイブであれ！
チャレンジする心とグローバル教育



前文部科学大臣政務官 参議院議員
上野通子氏 × 石隈利紀
副学長・附属学校教育局教育長

- 8 聴 稲葉信子 教授
- 10 特集 世界遺産 file#1 富岡製糸場
- 12 OB&OG そにしけんじ 氏
- 14 学内組織紹介 特別支援教育研究センター
- 16 名物先生登場 鈴木清夫 教諭(附属駒場中・高等学校)
- 18 Sports Club 体操競技部
- 20 Art & Culture 海洋研究会
- 22 Homeland エリトリア国
- 24 TOPICS
- 30 リレーエッセイ
- 32 茗溪会・紫峰会
- 34 新聞掲載・テレビ放送一覧
- 35 イベントカレンダー



画像提供：富岡市・富岡製糸場

なりたい自分に、なりにいく。



トビタテ!
留学JAPAN

その経験が、未来の自信。

「トビタテ!留学JAPAN」は、教育一環として、日本国政府から海外に派遣された留学生が、海外での経験を通じて、将来の自信を高めることを目的としています。

文部科学省

対 談

ブレイブであれ! チャレンジする心と グローバル教育

前文部科学大臣政務官 参議院議員

副学長・附属学校教育局教育長

上野 通子氏 × 石隈 利紀

現場の教師の思いを伝えるために

石隈: 上野先生は、国語教師から県会議員に転身し、4年前に国会議員になりました。長い教師経験をおもちの方が、国会議員としてご活躍されるということは、教育関係の人間としてとても心強く思っております。まずは、教師を目指された理由や、政治家に転身されたきっかけなどからお話いただけますか。

上野: 文学少女で、日本文学が大好きだったので、大学では日本文学を専攻しました。どんな仕事に就くかについてはいろいろ迷いましたが、父親の背中を見て育ちましたので、最終的には教師の道を選びました。

石隈: お父様も学校の先生だったのですね。

上野: はい。父は、「日本はこれから、世界で活躍するような、一握りの優秀な生徒に力を入れて育てるようになるだろう。そうした中でおそろく忘れられてしまうのが、『日本を愛し、日本のために何かしたい』という思いを持って社会に出ていく子どもたちを育てる大切さ」だ。だから、自分はそういう教育をしていく」と常々話していました。私は、「父が目指していたような子どもたちをいよいよ本格的に育てる時が来たな」という思いもあって、教師になりました。

石隈: お父様はさぞ喜ばれたことでしょう。

上野: そうですね。父が校長をしていた学校で教育実習をした時に、当時はもうほとんど教壇に立っていなかった父から「最後の授業になるから見に来い」と言われ、見学に行きました。そうしたら、商業高校の貿易の授業で、使われている単語は半分以上が英語。外国貿易ということで使っていたんです。特別優秀な生徒が集まっているというわけでもなかったのですが、『分かるわけないだろう』と思いました。そこで、後ろから生徒にこっそり「分かる?」って聞いたら、「分からないことは後で調べます」と言うんですよ。必死にノートを取っている生徒たちの姿を見て、勉強する意欲をつけていることを実感し、とても感動しました。

石隈: 「分からないことを調べる」のが学習の根本ですよ。お父様の授業を娘さんが見て、その思いを受け継いで教員になるとは、すごく素敵ですね。

上野: ありがとうございます。

石隈: 県会議員になられたのには、どのような経緯があったのでしょうか。

上野: 家族でイギリスに行って、4年近く生活したことがきっかけです。偶然声を掛けていただき、半年後から帰国するまで、現地の小・中・高で日本語教師をしていました。ちょうど、首相がサッチャーさんからブレアさんになり、「1にも、2にも、3にも教育」という取り組みをしていた頃です。どんどん良くなっていくイギリスの教育の中で、自分も教師をさせていただいたので、いろいろと学ぶことができました。

石隈: それはいい時期に行きましたね。ブレアさんは教育改革を頑張っておられました。ご自身も首相でありながら育児のため休暇を取ってお子さんを育てられたりしてね。

上野: イギリスの教育と比較しながら、外の社会から日本の教育を冷静に見つめる中で、「このままでは日本の教育がおかしくなるんじゃないか」と考えるようになりました。私が帰国する時、子ども3人は、イギリスの教育を受け続けたいということで、ボーディングスクール（寄宿学校）に置いてきたんです。それで身軽だったこともあり、元の学校の教員に戻ると、イギリスで考えていた教育の実践に全力で取り組みました。高校生の留学コースを作ったり…。お金が掛かることですが、学校や教師の皆さんからの反対もありましたが、「首を懸けてやります」と言って、1年間オーストラリアに留学させるコースを実現させました。そうしたことが、「教育現場に、1人でいろいろやっている教師がいる」と目に留まったようで、「教員の本音を、議員になって訴えることが必要なんじゃないか」と声を掛けていただきました。県議員に立候補する時は、家族や親戚に反対され、学校には応援できないと言われまして。苦しい立場で、迷った末の決断でした。

石隈: 政治家になるということは大変な

ことですからね。

上野: 「日本の教育を良くする、その助けになるんだったら」という一心で議員になったので、日本の教育が良くなれば、私は教育現場に戻るつもりでいます。

石隈: 私は心理学の立場ですけど、現場の先生とずっと一緒にやってきたので、教師の大変さとか頑張りというのを伝えたいですし、ぜひ政策に生かしてほしいと思います。

上野: 石隈先生のご専門は、学校心理学ですね。どうして学校心理学を専攻されたのですか?

石隈: 私の原点は家庭教師です。1コマ2時間でしたが、実際に勉強するのはその半分くらいで、残りの時間は勉強の仕方とか、恋愛とか、いろんな相談にのっていました。この半分勉強、半分相談というのが、すごくいい時間に感じたのです。学校心理学というのは、日本では比較的新しい学問です。アメリカに留学した時には、私の頭の中に教育心理学という言葉しかなかったのですが、アメリカでは教育心理学は基礎的で、いろんな実験をしたりする学問でした。それに対して、学校心理学は現場で先生方を支援したり、カウンセリングを行ったり、子どもの困っていることを解決するという実践的な学問で、すごく引かれました。アラン・カウフマンという、世界的に有名な学校心理学の先生が指導教員という幸運にも恵まれました。1990年に日本に戻ってからは、ずっと現場の先生方と一緒に学校心理学の実践をしたり、先生方の支援をしたりしてきましたので、『現場の教師を大事にする』という思いは、とてもよく分かります。

上野: 共通点があって光栄でございます。

言葉の壁を越え、子どもと大人が心を1つに

石隈: ところで、3月には、筑波大学40+101周年記念事業「ヤングアメリカンズ※筑波大学附属学校スペシャル」を見にきていただきまして、ありがとうございます。

上野:こちらこそ、感動や英気をいただきまして、ありがとうございました。人間は、ものすごい恐怖やものすごい感動など、思っている以上の出会いがあると言葉が出なくなりますよね。ヤングアメリカンズの公演を見た時、感動で言葉を失いました。子どもたちが、限られた時間の中で、自分の能力を最大限に生かしてあれだけの舞台を作り上げるということは、本当にすごいことです。

石隈:ヤングアメリカンズの教育活動であるアウトリーチは3日間。何の経験もない子どもたちが、3日間歌とダンスを練習し、最後にヤングアメリカンズのキャストと一緒にショーを披露します。あの時は、先生のお顔から、感動がよく伝わってきました。

上野:イギリスに住んでいた頃に、自分の子どもたちが体験したことと重なって、より感動したのかもしれない。

石隈:それはどんな体験ですか？

上野:イギリスでは、学校の物を自分たちでファンド(基金)を作って買うという動きが、当たり前にあります。うちの子供た

ちがお世話になった学校は、ピアノがボロボロで、保護者たちが学校に買い替えを要望したのですが、学校側からの回答は、「予算がないからもう少し待って」というものでした。すると、子どもたちが「みんなでお金を集めよう」と立ち上がったのです。

石隈:ファンドレイジング(基金集め)ですね。

上野:イギリスに行つてすぐの頃で、うちの子たちは、まだ英語がほとんど話せませんでした。ピアノが弾けたから誘われたのでしょうか。ある日、子どもたちから「こういうことでファンドレイジングをやるから、私たちも支援したい」と話がありました。「そういうことなら協力するよ」と大人も一緒になって、みんなでコンサートを開いたんです。子どもたちはコンサートの練習をしながら、休みの日を利用して、ポスター作りからチラシまきまでやってね。1つの目的に向かって、大人も子どもも心を1つにして頑張つてコンサートを成功させ、30万円以上のお金を作った

んです。あの時の感動といったらなかったです。

石隈:英語がほとんど話せなかったお譲様たちが、自分たちの力で、大人と一緒にファンドレイジングという目標を達成したことと、ヤングアメリカンズが言葉の壁を乗り越えて、キャストと子どもと一緒に3日間で舞台を作り上げたことが重なったわけですね。

上野:私は、これがグローバルな教育だと思っています。

石隈:チャレンジするとか、一緒にするとか、言葉を超えるということがグローバル教育の基盤ですね。

上野:そういう場をきちんと与えてくれる附属学校の生徒さんは幸せだなと思います。

グローバル教育と留学

石隈:上野先生がグローバル教育に関心をもたれているのは、ご自身の体験がベースになっているのですね。

上野:そう思います。イギリスでは片田舎の一軒家で暮らしていたのですが、引越したその日から、電気屋さんやガス屋さんに来るは、近所の人に来るは…。最初は英語がほとんど分からず、それは大変でした。イギリスに行く前に、英会話スクールに通ったのですが、十分には役に立ちませんでしたね。英会話スクールのテキストを見ながら会話するというわけにもいきませんし。言葉の中から自分の知っている単語をピックアップして、推測するかありませんでした。スマイルでごまかしながらね。到着してから1週間で、私の英語能力はものすごく伸びたと思います。

石隈:チャレンジですね。

上野:子どもたちにとっても、チャレンジでした。英語がゼロの状態ですぐに現地校に行かせましたので。どっさりと英語の宿題をもらって帰ってくるんですよ。単語を1日に100個覚えなさいとか、イギリスは本当にたくさんの宿題を出します。「ママ、これどうしよう」って、どう手をつければいいのかもわからない状態でした。長女はボーディングスクールに入りましたから、下の2人と一緒に毎晩夜中まで勉強しました。途中、何度子どもたちが泣いたか



うえ の みち こ
上野 通子氏

前文部科学大臣政務官 参議院議員

栃木県出身

1981年 共立女子大学文学部卒業
1981年 文星芸術大学附属高校、宇都宮文星女子高校で国語教師
1997年 家族で渡英。日本語教師
2001年 文星国際交流センター長就任
2003年 栃木県議会議員に当選
2010年 参議院議員に当選
2013年 文部科学大臣政務官就任

「海外に留学すると、子どもたちはものすごく変わります」

分かりません。今になってみると、子どもたちにはそれが一番懐かしい思い出になっているようですけれど。

石隈: お母さんも一緒に勉強するというのが、素晴らしいですね。いいお母さんです。

上野: あの経験は良かったみたいです。娘たちはあの時に習慣がついたから、勉強が苦にならないと言っていました。おかげさまで、私は一度も子どもたちに「勉強しろ」と言ったことはありません。

石隈: それは、ヤングアメリカンズと一緒にです。ヤングアメリカンズは、「教えたから、さあやりなさい」ではなく、キャストがそばに居て、一緒に歌っているでしょう。一緒にやる、それがポイントです。

上野: そうですね。ヤングアメリカンズに参加した子どもたちもそうでしたが、子どもは引き出すとすごい力を発揮します。娘たちは、半年後にはネイティブに近い英語をしゃべっていました。でも、英語が分かるようになった頃、一番下の娘が人種差別といういじめにあいましてね。親にも言えず、かなり追い詰められていました。姉が気付いてくれまして。それから、私も聞きました。いじめは、子どもだけでなんとかなるものではありません。親子で闘うべきです。

石隈: 大変でしたね。でも、それも貴重な経験ですね。

上野: イギリスでいろいろ経験して、私自身も成長しました。

石隈: グローバル教育において、海外を経験するということは大きいですね。筑波大学の永田恭介学長は、「武者修行」と言って、学生を海外に出しています。

上野: 文部科学省も、「トビタテ!留学JAPAN」という留学促進キャンペーンに力をいれていますが、本当に、海外にボーンと行かせるのが一番です。それで私は、先ほども申し上げたように、教員をしていた高校に留学コースを作りました。1年間オーストラリアに行かせるコースです。向こうでいろいろなものを自分で吸収すると、子どもたちはものすごく変わります。

石隈: 外の世界から日本を見る経験をするのも貴重ですね。

上野: 世界の中には、子どもが落ちついて学校に行けない国もありますね。そうい

「チャレンジする、一緒にする、グローバル教育の基盤です」 言葉を超える、



いし くま とし のり
石隈 利紀

副学長・附属学校教育局教育長

山口県出身

1985年 モンテバロー大学 文理学部心理学科 卒業

1990年 アラバマ大学大学院 行動科学研究科 博士課程修了 Ph.D.(学校心理学)

1990年 筑波大学 心理学系 講師

1994年 〃 心理学系 助教授

2001年 〃 心理学系 教授

2004年 〃 大学院人間総合科学研究科 教授

2007年 〃 〃

附属学校教育局次長兼務

2013年 現職

日本学校心理学会理事長、日本学校心理士会会長、日本心理諸学会連合副理事長

福島県子どものこころのサポートチーム協議会委員

うことを見てくると、日本がどれほど恵まれているか、なんてありがたい国かが分かるんです。

グローバルでローカルな グローカル教育の重要性

石隈: これからの日本のグローバル教育においては、どのようなことが大事だと思いますか？

上野: 「グローバル教育の前に、日本語教育だろう」と言われることがあります。これはグローバル教育を誤解した意見です。グローバル教育というのは、言葉を変えると、国際理解教育でもあり、「グローカル」な教育でもあります。

石隈: グローバルでローカルな教育ということですね。

上野: そうです。これをもっと発信していかないと、皆さんに伝わらない。小学生

のお母さん方から、「英語の塾に行かせなければいけませんか」というような質問を受けますが、「そうではなく、地域のいろんなイベントに参加をして、地域の文化を知ってください」とお話ししています。小中高を通して、日本の文化にはどういいうものがあるか学んでほしいです。古事記などの古典を学び、日本という国の成り立ちがどんなものなのかを知っておくことも大切です。

石隈: ルーツを知ることですね。

上野: そうです。ルーツを知ること。あとは、文化の根っこになっているもの。私は、うちの子どもたちに、「日本には道というものがある。柔道も剣道も華道も書道も、全てのことは精神を高めるためにやってきたのが日本なんだよ」と教えてきました。これは、他の国にはない素晴らしい文化です。



石隈: この「道」は、英語で表現できないですね。

上野: 私はここをね、子どもたちに学ばせることからかなと思っています。

石隈: 国語教育にも通じますね。

上野: もちろんです。日本語をしっかり学び、日本の文学に親しむということです。

石隈: 私がアメリカにいた時、アフリカ系アメリカ人たちとお付き合いがありました。彼らは、自分たちのルーツをすごく大事にしている、いろいろ話してくれました。自分たちの文化やルーツが大事だと思う気持ちがないと、他の国の人たちがそれぞれの文化やルーツを大事にする気持ちがわかりません。『それぞれ国によって文化が違うので、もっと理解し合わなければいけない』という気持ちを伝えるのも、グローバル教育ですね。

上野: 11月に、岡山と名古屋でESD (Education for Sustainable Development～持続可能な開発のための教育)※の世界大会があります。文部科学省では、ESDの主旨を子どもたちに伝えるために、「ESD QUEST」という冊子を作りました。

石隈: ESDは、自分の地域や文化を大切にしながら、他の地域や文化を大

切にして、地球規模の共生を目指すという、これもまさにグローバルな教育ですね。

上野: 先日、この「ESD QUEST」を教材にして、出身の小学校で授業をやりました。この冊子の最後は、「あなたの毎日が、未来になる」と結んでいます。食べ物の話をすると身近に感じるかと思い、「給食は残していない?」「家でお母さんが作った料理を、残ったら捨てていない?」と問いかけ、「お母さんと一緒に考えながら、料理を作り過ぎないように注意し、作ったものは大事に食べるように」と伝えました。

石隈: 筑波大学の附属坂戸高等学校は、ユネスコスクールです。ここでは、インドネシアやタイの生徒たちと、ESDについてのシンポジウムを開いたりしています。

上野: それは嬉しいです。筑波大学も、グローバル教育に力をいれていらっしゃいますね。

グローバル教育日本一の大学として

石隈: 筑波大学は、「グローバル教育で日本一の大学」と自負しておりまして、留

学生の率は日本でトップクラスですが、永田学長が就任されてから、よりいっそうグローバル教育に力を入れています。永田学長は、「異常気象や貧困、食糧危機などの問題は、地球規模で取り組まないと解決できない。筑波大学のミッションは、そのための研究成果を出すと共に、そうした研究を引っ張っていく人材を育てること」と話しています。

上野: 素晴らしいですね。

石隈: そのために、今いろいろなことを考えているんですよ。まず1つは、留学生を増やすこと。昨年度は、100を超える国から3千人を超す留学生を受け、650人ほどの筑波大学生が海外に留学しました。この数をもっと増やそうと頑張っています。もう1つは、高校と大学が一緒になって、グローバル人材を育てること。文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)という事業において、附属高等学校と附属坂戸高等学校が指定校になりました。そして、国際バカロレア入試の実施。今年の入試から、国際バカロレア資格を取得した者は、主として口述試験だけで入れるようになりました。さらに、筑波大学の授業が連携しているフランスのボルドー大学で受けら

れたり、ボルドー大学の授業が筑波大学で受けられるというような「科目ジュークボックスシステム」という仕組みも計画中です。こういう面白い企画を実施し、筑波大学のグローバル教育をますます充実させていく予定ですので、応援していただければと思います。

上野:もちろんです。

ブレイブであれ!

石隈:最後に、現場の教員や保護者へのメッセージをお願いします。

上野:日本の教育はいろんな面で優れていると思いますし、教育現場も充実しています。個々の家庭も他の国に比べてはるかに高いレベルの生活をしています。そうした恵まれた環境の中で、海外から見ると、日本の子どもたちは、過保護な状態で成長しているかもしれません。私は先生にも保護者の方にも「子どもたちと一緒に、もっとブレイブに生きてほしい」と伝えたいです。

石隈:ブレイブ…勇敢であれと。

上野:子どもたちは、環境や時代が変化しても、「何かをしたい」という冒険心にあふれているものです。ところが、危ないからダメとやらせない。でも、「やってごら

ん。ここで見てるから」と、ブレイブをもって子どもたちを見守っていてほしい。子供の冒険心をもっと生かせる教育をしていただき、たくましく生きる子どもたちを育てていただきたいと願っています。本当に危険な時や、どうしても乗り越えられない壁に当たった時だけ、助けてあげてください。

石隈:「少しでもけがをさせたくない」「失敗させたくない」「いい大学に行って、楽な人生を歩んでほしい」と思う気持ちですが、子どものためにマイナスになっているかもしれませんね。ケガや失敗を恐れず、チャレンジさせる。ただし、子どもだけにやらせるのではなく、大人が見守ったり、一緒にやったりする。これが大切ですね。

上野:「共に育む」です。

石隈:心理学でいうと、「共に育む」で何がプラスになるかという、一緒に学ぶことで自分の不安と付き合えるようになるんですよ。完成している人などいません。先生や保護者も、育っているプロセスにいて、わからないことに突き当たりながら子どもたちを育てていますから、不安は当たり前なんです。ですから、「共に育む教育」というのは、これからの学校教育のキーワードになると思います。

上野:石隈先生の本では、「互助」と表現されていますね。「共育」と同じだと思います。

石隈:今日は、本当にありがとうございます。政治家の方々と現場の教師、そして、我々研究者が、教育について一緒に考えていくということが大事だと思いますので、今後も一緒にやらせていただければありがたいと思います。

上野:こちらこそ、石隈先生と巡り合えて、こうやってお話をさせていただいて、本当にありがたいと思っています。これをご縁に、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

※ヤングアメリカンズ：1962年ミルトン・C・アンダーソンによって設立された非営利活動団体。世界各地で、公演活動や、音楽と踊りを通じた教育活動を行っている。17歳～25歳の若者たち約300名で構成され、オーディションで選ばれた40名のキャストがこの夏日本のツアーに参加した。標準のプログラムは3日間。この間に練習・リハーサルを行い、最終日にショーを実施する。本学では、2013年6月、2014年3月、6月に開催。子どもたちはキャストと、慣れない英語で、歌とダンスと一緒に練習し学んだ。

※ESD：(Education for Sustainable Development) 持続可能な開発のための教育のこと。人格の発達(責任感など)や関わりを尊重する態度などが強調される。この活動の中核を担っているのがユネスコ。関連して「世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと」と「地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざすこと」を目的とした「ユネスコスクール」があり、ESDの推進拠点と位置づけられている。附属坂戸高校もユネスコスクールの1つ。

対談を終えて

上野先生に対談をお願いしたのは、上野先生の子どもや学校に向ける視線の温かさ、子どもの成長への熱い思い、そしてグローバル教育への熱心な取組みに感銘をうけたからです。対談を終えた今、上野先生の教育への思いが、ご自身のイギリスでの体験、そして教師やご自分のお子さんとの関わりに裏打ちされたものであることが、よく分かりました。グローバル教育、共生・共育・互助から生き方にもおよぶ、ダイナミックな対談でした。

対談の中から、感銘を受けた言葉について、感想を述べます。

現場の教師の思いを伝える

教員経験の上野先生が、現場の教員の思いを尊重し、社会のシステムづくりに生かそうとされていることに共感しました。私も11の附属学校のリーダーとして仕事をするなかで、また全国の現場の先生方の活動と接するなかで、教員の活動を社会に発信するよう心がけています。子どもの問題がおきる度に学校が

批判されることが多いように思います。それはそれだけ日本では「学校教育」への期待が大きいことの裏返しなのであり、学校への批判をうけとめてさらに学校教育の改善をはかる必要があります。一方、学校に関わる者が社会に対して自分たちの活動を説明することが十分ではないこともあり、「過小評価」になっていることも多いように思います。上野先生をはじめとする議員の方々や経済界の方々にも、現場の教育力と課題について発信していく必要を感じています。

子どもと大人が一緒につくりあげる

上野先生とお嬢様のイギリスでのお話が、とても印象的でした。学校にピアノを買うための基金集めを一緒にされたのです。共通の目標・目的のために子どもと大人が力を合わせること、まさに上野先生の言われる「共育」ですね。共に育つという精神は、ヤングアメリカンズを日本で引き受けているNPO「じぶん未来クラブ」の代表佐野一郎氏が大切にする

「いつも未完成」というコンセプトと一致します。互いが育ち合うプロセスですから、大人が子どもの失敗を責めることも、自分のふがいなさに落ち込むことも少なくなると思います。

ブレイブであれ

この言葉は、グローバル時代を生き抜くすべての人へ贈る言葉として、大切にしたいと思います。森岡正博氏の言う「無痛文明(苦しみを遠ざける仕組みがはりめぐらされ、快に満ちあふれた社会)」で生きている私たちは、できるだけ無難に、けがをしないようにしますし、子どもにも無難で「豊かな」人生を求めます。この社会で、自分らしく生きるためには、「Brave」でなくてはなりません。未知に向かう勇気ですね。私のカウンセリング心理学の恩師、國分康孝氏が私たちに言われることばが“Courage to be”です。自分らしく生きる勇気をもつ…ここに、グローバル時代を生きる指針がありますね。

石隈利紀

いな ば のぶ こ
稲葉 信子 教授(芸術系)

1955年	愛知県生まれ	
1990年	工学博士(東京工業大学)	
1991年	文化庁文化財保護部建造物課文化財調査官	
2000年	文化財保存修復研究国際センター(ICCROM)日本政府派遣職員	
2002年	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所 国際文化財保存修復協力センター保存計画研究室長	
2003年	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所 国際文化財保存修復協力センター企画情報研究室長	
2008年	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授	
2010年	〃	〃 世界遺産専攻長
2012年	〃	〃 世界文化遺産学専攻長

する凍結保存だけでなく、人々の生活や地域の発展を阻害せずに街並みや景観を保全する「持続可能な開発」に貢献する文化遺産・自然遺産も重要なというコンセプトです。前者は専門家の仕事ですが、後者の場合は、地域住民を巻き込んだまちづくりのプランニングが不可欠です。地域おこしや観光地のブランドとして世界遺産登録を目指すのは世界的傾向ですが、その申請は政府にしかできません。世界遺産に申請するということは、観光客の流入も考慮した地域の発展と文化資源・自然資源の保全を両立させる長期的な開発ストラテジーをつくること、その国が国際的に約束することなのです。

国際専門家の役割

世界遺産はブランドとして定着しました。それは制度が成長した証でもあります。文化遺産・自然遺産の保護の機能がきちんと果たされているかというと、まだまだ問題は山積しています。条約の理念が忘れられ単なる観光ガイドになりかねない懸念はもとより、新興国の台頭に伴う無秩序な開発競争や、世界各地で勃発する武力紛争によって、世界遺産も含めた多くの宝が今も破壊され続けています。

世界遺産委員会では2012年、マリ共和国での紛争に際して、このような破壊行為に対する非難声明を出しました。けれどもその効力がどこまで及んだのかは分かりません。長年、国内の申請準備や世界遺産委員会での登録審査に携わり、この声明の作成にも参加した国際専門家としては、歯がゆい思いもあります。

毎年、20〜30件の世界遺産が新たに登録される中で、世界遺産に対する考え方も少しずつ変化しています。ユネスコや国際専門家は、国

際関係や世界経済も踏まえて、世界の文化財保護ニーズを見極めると同時に、危機的な状況にある文化財の保護や持続可能な開発という本来の目的に立ち返って、これからの世界遺産条約の方向性を見直す岐路に立っています。

持続可能な開発のカギは「仕掛け人」

文化遺産の保護というと、美術品の修復などの職人的技能をまずはイメージしがちですが、広くニーズがあるのは国際協力や地域おこしのコーディネートができる人材。例えば、ある遺跡の保護を支援しようとする、発掘調査だけでなく、その文化的価値の評価、建築の保存・修復、周辺地域のインフラ整備、さらには観光開発まで含めた総合的な活動が期待されます。それぞれの専門家を集め、地元の人々も交えてコラボレーションをしなければ、適切な文化財保護や持続可能な開発はできません。それを実現するカギは全体のコーディネート、「仕掛け人」の存在です。

仕掛け人は、その地域の事情に精通しているだけでは務まりません。建築・土木・化学・生物・環境・考古・美術制作などの分野の基礎的な素地の上に、文化財や自然資源の保存、公共政策、国際協力といった知識も持つ、まさに学際的な専門性が要求されます。

世界遺産条約の理念は、規模の大小にかかわらず、世界中のまちづくりや文化財保護活動のお手本になるものです。仕掛け人としての専門人材を育てつつ、文化遺産・自然遺産を守るという本来の役割に加え、自らもフロントランナーとして持続可能な開発の理想形を追求しています。

聴

稲葉 信子 教授（芸術系）

世界遺産を通して 持続可能な社会の達成に貢献する

現在、日本では18件の世界遺産が登録されており、さらに登録候補として11件が暫定リストに掲載されています。世界遺産は今や、最高の観光地ブランドとして認知されるようになっていますが、本来の趣旨は戦争や開発から世界の文化資源・自然資源を守ること、そのための国際協力にあります。国際専門家として世界遺産の申請や審査に携わり、保護すべき普遍的価値の見極めや持続可能な開発の在り方を探っています。

文化遺産・自然遺産の保護と 世界遺産条約

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が設立されたのは1946年。その根拠となるユネスコ憲章には、設立目的の一つとして「世界の遺産を保存・保護するための必要な国際条約を勧告する」ことが掲げられています。これが、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」という形で具体化されたのは1972年。長い時間がかかりました。

2度の世界大戦とその後の復興プロセスの中で、多くの貴重な文化遺産が失われてしまいました。また戦争が起きて壊されることにはならない。文化遺産の保護は、平和構築の

プロセスとも関係してユネスコの重要な役割です。しかし、資金をどこから集めるか、誰が何をやるのか、その仕組みを考えることはどうも容易ではなかったようです。ただしその間にユネスコは何もしていなかったわけではありません。まさに武力紛争時に文化遺産を守るための条約が1954年に、また文化遺産の不法輸出入を止めるための条約が1970年に、それぞれ必要に応じて個別に作成されています。

現在の世界遺産条約は、1960年代にエジプトのヌビア遺跡を国際キャンペーンで開発から守った経験をもとに、国際協力のための恒常的な仕組みがやはり必要であるとして準備が始まりました。文化遺産の保護はまずはその国の問題です。ある国の文化遺産について、

他の国が守るよう要求することは主権侵害になります。しかし、国際条約に基づいて各国政府が主体的に申請し登録された文化財であれば、他国がその保護を支援する理由が成立します。世界遺産条約は本来、制度や資金が不十分な国々で危機に瀕している文化財を国際協力でするという目的を持っているのです。

政策ツールとしての 世界遺産条約の役割

世界遺産の定義は「世界の人が共通して守るべき顕著な普遍的価値を持つもの」。美しいものや高価なもの、鑑賞するためのものとは限りません。当初は、国際的にもよく知られた古



第35回世界遺産委員会（パリ）の様子



パーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群

い遺跡や建築だけが登録されていましたが、世界各地のマイノリティの文化も大事にしようという考えから、また欧米への偏重を改めようとの考えから、世界の文化と自然の多様性を改めて見つめなおす方向にシフトしてきています。それは1990年代に入ってから始まりました。

これは、遺産保護の国際的な潮流とも呼応しています。文化遺産保護のすそ野が広がり、文化遺産をオリジナルの状態に厳密に維持管理

世界の文化遺産を守るための研究対象として、筑波大学は多くの世界遺産とのつながりがあります。文化財の価値や保存活動の一端を、現地でのフィールドワークの様子なども交えて紹介していきます。



画像提供: 富岡市・富岡製糸場

file #1

富岡製糸場

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は日本の世界遺産としては最も新しく、本年6月に正式登録されました。4つの構成資産のメインとなる富岡製糸場の保存活用に携わる岡野雅枝さん(富岡市富岡製糸場総合研究センター学芸員、本学世界遺産専攻1期生)と、製糸場建物の保存に保存科学的見地から携わる松井敏也准教授(芸術系)に、お話を伺いました。



世界遺産登録までの道のり

世界遺産登録を目指すプロジェクトが立ち上がったのは10年以上も前のことです。世界遺産としてふさわしい資産であるという専門家のバックアップを得て、その価値をしっかりと守って後世に伝えようという趣旨でスタートしました。

富岡製糸場は1987年まで操業していました。そのため地元の

人々にとっては「近所の工場」であり、文化財という認識はありませんでした。ですから、当初の反応は「あり得ない」。プロジェクトの第一歩は、「身近な親しみ」から「地域の誇り」への意識改革でした。解説イベントや展示会の開催など、さまざまな取り組みを通して徐々に理解が広がり、最終的には誰もが世界遺産登録を確信するようになりました。

同時に、国内の世界遺産候補の中から政府の

推薦を得なくてはなりません。文化遺産の推薦は年に1件だけ。まず国内法に基づいて史跡・重要文化財の指定を受け、文化財としての位置づけを確立した上で、近年世界遺産登録のカギとなってきた保護管理計画を作成しました。これには、文化財の維持・管理から、将来の活用プランまでが含まれます。行政・専門家・地元民、たくさんの関係者の努力がようやく実りました。

文化財としての真価

現地を訪れると、まず壮大な煉瓦造りの建物に圧倒されます。木の骨組と煉瓦造りの壁、中央に柱を立てずに広い空間を確保する工法など、建築物としての素晴らしさに驚きますが、富岡製糸場の最大の価値は、明治期以降の日本の近代化をけん引した製糸業において、大規模で本格的なものとしては初めて西欧から導入された先端の器械化設備であること、それがもたらした影響、



すなわち「産業遺産」としての重要性です。ほぼ創業当時のまま残っている木骨煉瓦造の建物や操業停止時のまま保存されている自動繰糸機が物語る、日本近代製糸業の始まりと絹産業の発展、技術革新、世界との交流、そういった養蚕・製糸業の歴史的な営みそのものが、守るべき普遍的価値として認められたのです。日本で近代産業遺産が世界遺産に登録された最初の事例です。

また、周辺エリアにも歴史の名残があります。製糸場の門外に、土産物店に混じって点在する古びた商店や飲食店。工員たちが利用していた店が今も営業を続けており、独特の雰囲気を出しています。最盛期は夜の賑わいも相当なものだったといえます。このような、当時の活気や暮らしぶりをうかがわせる町並みにも歴史的な価値があります。

保存・修復活動

4月末にイコモスから世界遺産登録の勧告を受けた直後から、来場者は急増しました。多くて3千人程度だった1日あたりの来場者数は、今では8千人を超えることもあります。見学の団体予約も夏の時点ですでに年内の分はほぼ満杯。うれしいこととはいえ、わずか数か月の間に、そのことによる施設への影響が現れています。

建物は、文化財に限らず、本来の目的と異なる使い方をすると、さまざまなストレスを受けます。例えば、工場や倉庫として建て



られたところに、大勢の人が出入りしたり、空調設備や展示物などが設置されると、温度や湿度、空気の流れ、床や壁にかかる荷重、振動、人から発生するガスなど、環境条件が変化します。これが、もともとの設計が許容できる範囲を越えてしまうと、思わぬダメージが生じるのです。

製糸場の礎石や煉瓦に出始めている劣化は、自然の経年劣化とは明らかに異なるものです。しかしその原因はまだ特定されていません。間違った対応はダメージを広げることもあり、材料や手法の選定など、修復には細心の注意が必要です。劣化の因果関係を突き止め、適切な処置を施すには、科学的なアプローチが不可欠。施設内の各所で、空気の成分や煉瓦内部の水分量などをモニタリングし、できるだけ文化財そのものには手を加えずに、環境を制御して劣化を抑える方策を探ります。

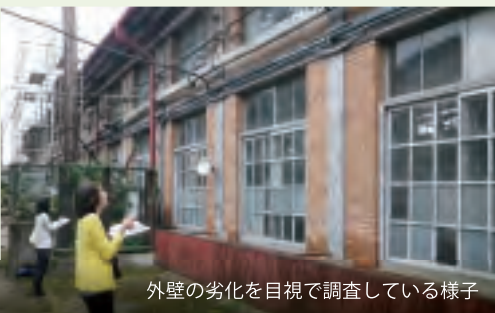
本当の見どころ

富岡製糸場の整備活用計画は始まったばかりです。現状では、修繕などが必要でまだ公開されていない施設や、急激な来場者の増加に対応しきれていない部分もありますが、この先約30年をかけて、継続的に保存修復を行いつつ、敷地全体をいくつかのゾーンに分け、見学、体験、研究、交流など、観光客だけでなく地元の人々が活用できる場所として、持続可能な開発を進めていく計画です。

多くの人は一度見学すれば十分だと考えるでしょう。しかし二度、三度と訪れると、文化財を堪能するだけでなく、30年計画の進捗状況を見る楽しみも増えます。その時々公開されている状態は、必ずしも来場者の満足のいくものではないかもしれませんが、そこに至るまでのプロセスや、施設を保護するために現地で地道な活動をしている多くの人たちがいること、そういうところにまで思いを馳せることが、世界遺産の精神に触れることでもあります。



展示室内の空気の成分を測定しているところ



外壁の劣化を目視で調査している様子



煉瓦の水分量を継続的に調査している



画像提供：富岡市・富岡製糸場

『読売新聞日曜版』で連載中の漫画「猫ピッチャー」をはじめ、7本の作品を連載中の人気漫画家・そにしけんじさん。今回は、1992年芸術専門学群視覚伝達デザインコース卒業のそにしけんじさんにお話を伺いました。

そにしけんじさん 漫画家

1969年 北海道札幌市生まれ
1988年 筑波大学芸術専門学群入学
1990年 『週刊少年サンデー』（小学館）の漫画賞受賞
1990年 『週刊少年サンデー』『流れカシジャコノ海』で漫画家デビュー
1992年 筑波大学芸術専門学群視覚伝達デザインコース卒業
1992年 大日本印刷入社
2000年 漫画家に専念



— 筑波大学を選んだ理由は？在学中に漫画家デビューされましたが、入学した時から漫画家を目指していたのですか？

絵を描くことはずっと好きだったので、筑波大学はデザイン学科のある国立大ということで選びました。漫画家を目指し始めたのは、大学2年生の夏です。

— 漫画家になろうと思ったきっかけは？
大学2年の頃「このまま就職して、サラリーマンの人生でいいのかなあ」と悩んでいて、中学生の頃の夢を思い出しました。それから、部活と勉強とバイトの合間に漫画を描き、いろいろな賞に応募し始めました。

— 中学生の時に漫画家を夢見ていたのですね。

結構真剣に漫画家を目指していました。お小遣いを前借りして、漫画の通信教育を1年間受けたこともあります。野球部の活動も一生懸命やりながら、1ヶ月に1度のペースで課題をこなすのは大変でしたが、真面目に提出していましたね。ただ、高校から大学1年生までは、ラグビーに没頭して、その夢をすっかり忘れていました。

— 体育会ラグビー部ですか？

はい。Bチームでしたから、いろいろな学類の学生がいましたが、それでも芸専はラグビー部史上初だと珍しがられました。いつもラグビー部のジャージで体芸棟辺りをうろついていたので、体専の学生と思われていましたね(笑)。

— 学生時代に、『週刊少年サンデー』（小学館）

の漫画賞を受賞して漫画家デビューをしています。夢がすぐに実現した感じですか？

そんなことはありません。受賞までたくさん応募しましたが、ことごとくダメでした。ようやく漫画賞を受賞した時には、すぐに連載が取れるものだと思いましたが、それから最初の連載が決まるまでに4年かかりました。描いた漫画を編集の担当者に出すと、ここを直してと返されます。直して出してというのを何回も繰り返してオッケーが出て、編集会議で突き返される。そんなことを何十回もやるんですよ。だいたい人はこれで嫌になってやめるみたいです。そのくらい厳しい。当然、その間、1円ももらえないわけですからね。

— それで大日本印刷に就職されたのですね。どのような仕事をされていたのですか？

ロッテのビックリマンのシールなど、主にお菓子メーカーのキャラクターシールの企画を担当していました。

— 大学で勉強したことも生かせる楽しそうな仕事のように思われますが、漫画家を辞めようとは思わなかったのですか？

視覚伝達デザインコースでは、グラフィックデザイナー養成のような勉強をしましたから、会社に入ってとても役立ちましたし、それなりに楽しかったです。でも、こういう仕事をやったことで、より漫画家への思いが強くなりました。人が作ったキャラクターを商品に落とし込んでいって印刷するというのは、「位置的に一番下の仕事で、一番

上は原作者だなあ」と感じて、「自分は一番上になりたい」と思ったからです。

— 就職後8年くらいサラリーマンと漫画家を両立されていたそうですが、漫画家として自立できるようになって会社を辞めたのですか？

金銭的なことより、週刊誌の連載を引き受けたら、忙し過ぎて睡眠時間がゼロになったからです。1ヶ月くらいほとんど眠らなかったら白昼夢みたいな状態になってしまい、「もう限界」と会社を辞めました。

— 漫画家として、大学時代の経験が役立っていると思うことはありますか？

いろんな人を知っていないと、「ああ、こういう人いるよね」と皆さんが納得するキャラクターを創り出すことはできません。筑波大学は、全国から学生が集まってきていますし、総合大学でさまざまな分野の学生がいますから、びっくりするほどいろいろな人に出会いました。これはすごい財産です。それから、学生時代のエピソードを漫画のネタにしたこともあります。一の矢学生宿舎で、学内で拾った犬をこっそり飼っていたのですが、この時の話は「ほぼ0円ペット」※という本に詳しく描きました。

— 昨年の春から『読売新聞日曜版』に連載を開始した「猫ピッチャー」※が大人気です。単行本は発売1ヶ月で20万部を突破して話題になりましたし、テレビアニメ化され、キャラクターグッズも次々に発売されています。主役のミー太郎がなんともかわいらしく、着眼点がユニークで、意表をついた面白さが魅力ですが、作品はどのように作られるのでしょうか。

思いつきで描くという作り方はしません。猫由来のネタと野球由来のネタ、大きく2つのテーマに分けて、いろんなネタを大量に用意しています。だいたいのアイデアは、塩漬けというか、寝かしている状態になっているのです。さあ描くぞという時には、前回と内容が重なったりしないようにバリエーションを付け、その時一番面白いと感じたネタを選んで、パターン化しないように工夫しながら描きます。

ー 現在7本の作品を連載中だそうです。同時進行でそれぞれ同じ作業をしているわけですか？

そうですね。それだけでなく、連載している7本のテンポや雰囲気が重ならないように、漫画ごとの基準を決めています。例えば「猫ピッチャー」は、ゆったりとしたテンポでファミリー向きに。アクが強くなり過ぎないように、個性が強くなりすぎないように考えています。描く順番で、前の作品のテンションの影響を受けたりするとキャラクターが崩れてしまうので、描く順番を工夫したり、気分転換をして前の作品の雰囲気を抜いたりします。役者の役作りと似た感じなのではないでしょうか。体調が悪いと切り替えがうまくいかなくなるので、体調管理には気を使っています。

ー 漫画家を目指している学生にアドバイスををお願いします。

絵は、たくさん描けば上手くなります。問題は何を描くか、どれだけ描きたい事があるかです。誰もが知っているありがたきことを描いても面白くありません。読者を引き付ける作品を描くためには、学生時代になるべくいろいろなことを経験しておいた方がいいです。精神的にも強くなりますしね。100回も200回もへこまされますから、精神的にタフでないとやっていけません。それから、描いた漫画を売る営業活動が重要なので、社交性が求められます。生産と営業と宣伝。電話応対や打ち合わせをやりつつ、時間の管理やコストの管理などもしなくてははいけない。漫画を描くだけでなく、こういうことを全部自分でする必要があります。大変そうだと思うかもしれませんが、漫画家は、資金も資格もなしでできる夢の職業でもありますよ。



※「ほぼ0円ペット」より抜粋



※「ほぼ0円ペット」(講談社)
そにしけんじさんご自身のペットライフを面白おかしく綴ったコミックエッセイ



※「猫ピッチャー」(中央公論新社)
プロ野球界初の猫投手・ミー太郎が、セロリーグのヨリウミチャイアンツというチームで活躍するほのぼのファミリー向け23コマ漫画

【連載中の作品】

- 猫ピッチャー(読売新聞日曜版) ●トロピカル侍(週刊ヤングマガジン/講談社)
- 深海マンガくらげちゃん(イブニング/講談社) ●?まほう学校(小学二年生/小学館)
- ねこみじんこ みーつけた!(ぶつぐみ/小学館) ●とろ〜り カビうさ「ねーねー」(主婦と生活社) ●ねこねこ日本史(ねこきゅん!!/実業之日本社)

【その他の主な作品】

- 猫ラーメン 全6巻(月刊コミックブレイド/マッグガーデン)テレビアニメ化・映画化
- 猫探偵 全2巻(マッグガーデン) ●甘党ペンギン 全3巻(ARIA/講談社)



つくばキャンパスは、東西約1km、南北約4kmの自然に恵まれた広大なキャンパスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な教育・研究組織がありますが、全てを知ることはなかなかできません。その組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。

特別支援教育研究センター

Special Needs Education Research Center

Introduce

特別支援学校を附属とする大学は国内に数多くありますが、視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・自閉症にそれぞれ特化した特別支援教育を行う附属学校を擁しているのは筑波大学だけです。特別支援教育研究センターは、これらの附属学校が蓄積してきた教育方法や教材を集約・体系化するとともに、教育資源として幅広く活用するための拠点づくりを進めています。

四日市 章 センター長



特別支援教育のモデル校として

さまざまな障害のある子どもに対する教育は、かつて、盲・聾・養護学校、特殊学級という形で、障害種別の観点から個別にきめ細かな対応が行われていました。これが、インクルーシブ教育への時代の流れの中で、「特別支援教育」として個々の子どもの教育的ニーズに重点をおき、自立や社会参加を目指す教育制度へと転換されたことを機に、平成16年4月、特別支援教育研究センターが設立されました。

障害児の約8割が知的障害であるため、それ以外の障害を扱う特別支援学校は少ないのが現状です。そんな中で、視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・自閉症に対応する附属学校を有している筑波大学は、特別支援教育のモデル校として重要な役割を担っています。また、大学においても充実した障害科学分野の教育研究体制があり、センターの活動を通して、各附属学校と大学とが連携し、

ひとつの大きな力として特別支援教育の拠点となることを目指しています。

教材のデータベース構築

センターを構成するのは、学内の教員4名と各附属学校から1名ずつのベテラン教員です。特別支援教育の指導方法やノウハウは、これまで障害種ごとに分けて考えられており、また、教員個人の創意工夫に委ねられる面も大きく、教員間での共有や次世代への継承は必ずしも十分に行われてきませんでした。しかし実はそれらの多くは障害種に関わらず、共通して利用できる貴重な教育資産です。その重要性が認識された背景には、センターを介して附属学校間での情報交換が盛んになったことがあります。

そこでセンターでは、各附属学校で独自に蓄積してきた教材を集約し、データベースとして体系化する計画を進めています。「このデータベースは広く公開し、誰

もが自由にアクセスし、ブラッシュアップしながら共有財産として活用できるようにしたい」と、四日市章特別支援教育センター長は抱負を語ります。

こういった情報共有の試みは、人的なネットワーク形成にもつながっています。附属学校間で互いに協力して課題を解決するための、連携のコーディネートもセンターの機能の柱です。さらに、共同研究という形での連携推進も図っています。

全国の教員が集まる質の高い研修

特別支援教育研究センターのもう一つの大きな機能は現職教員を対象とした研修です。毎年夏に開催する、免許法認定の公開講座には、全国から大勢の受講者が参加します。特別支援教育の免許には障害別の5つの専門領域がありますが、地域によっては研修の機会が少なく、複数領域の免許取得に何年もかかることがあります。センターでは、この



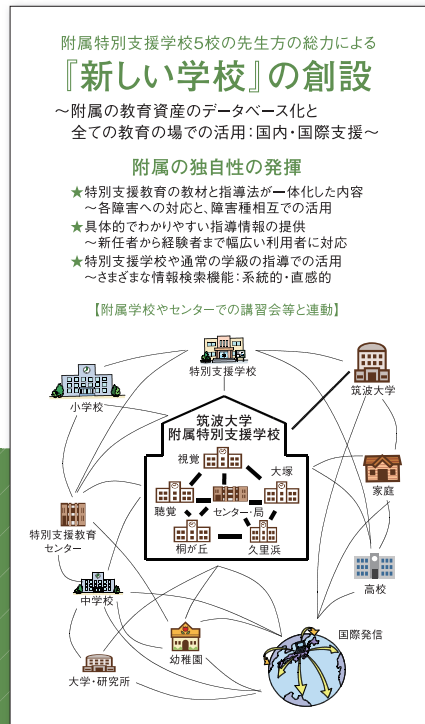
平成26年度現職教員研修開講式



知的障害のある幼児児童の手指の巧緻性向上や、やりとり促進の教材



花びらなどに触れて花の構造を観察する視覚障害向け理科実験の指導演習



免許法認定公開講座の様子

講座を約10日間にわたって集中的に開催し、この期間内で全領域の免許が取得できるようにしています。受講者にとってもハードな研修ですが、筑波大学と附属学校の教員によるレベルの高い内容で評価を得ています。

また、各県から派遣される教員を、毎年、4～5名程度を受け入れる、半年～1年間の現職教員研修事業も実施しています。研修生は一定の教育経験を積んだ中堅教員で、各自が研究テーマを持って研修に臨みます。センターでは附属学校などのフィールドを活用しながら実践的な研究に取り組める環境を提供し、研修生の研究活動を指導・サポートしています。その成果は、それぞれの教育現場に還元されています。

特別支援教育の国際協力

アフリカや東南アジア諸国などの特別支援教育に対する協力もセンターの重要

な使命です。JICA（国際協力機構）等の要請を受け、指導方法のアドバイスや研修・交流を行っています。

途上国では、経済状況や文化の違いから、教育制度そのものが未熟な場合も多く、特別支援教育という枠組みを持たない国もあります。そのような国々に、日本の教育方法がそのまま適用できるわけではありません。教育レベル、指導技術、教材など、それぞれの国情に応じ、日本が持っている知見を最適な形に変換・提供することが求められます。試行錯誤の部分もありますが、センターには教育力の蓄積がある上、筑波大学は教育に関する国際協力の基盤も整っていることから、このような活動にも内外からの期待が寄せられています。

新しい特別支援学校に向けて

特別支援教育で用いられる教材や丁寧な指導は、ユニバーサルデザインとし

て、普通教育にも応用することが可能です。また近年は、障害種によらない教育や、普通校との交流・共存（インクルーシブ教育）の効果もうたわれるようになってきました。「障害者サポートの在り方を机上で考えるのではなく、子どもたちが共に活動する経験を通して、互いの違いやコミュニケーションの方法を感覚的に身につけるための交流ベースをつくっていきたいと考えています」（四日市センター長）

特別支援教育研究センターの最大の強みは、各附属学校が持っている教材や情報を総合的に生かせること。複合的な障害にも対応した包括的な教育相談や就業支援、またウェブ等を利用し、インクルーシブ教育や先述の教材データベースも含め、障害種や学校単位の活動を越えて関係者が協働できる場、障害者自身や保護者にも開放された総合窓口となるような、新しい形の特別支援学校への発展を将来像として描いています。

附属学校の名物先生登場！15

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に11校の附属学校があり、いずれもそれぞれの分野でわが国の教育をリードしています。そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。



今回の先生

Profile

すず きよ お
鈴木 清夫 教諭

筑波大学附属駒場中・高等学校 数学科

山形県出身。山形県立酒田東高校から東京理科大学を卒業し、千葉県の公立高校教員となる。千葉県立浦安高校で5年、千葉県立千葉西高校で3年勤務した後、1987年に本校に着任、現在に至る。高校では陸上競技部に所属しインターハイ出場経験もあるが、本校では継続してハンドボール部顧問。ハンドボール部の最高成績は中高とも東京都best8。これまでに学級担任として中学および高校で3回ずつ卒業生を送り出した。この中には国際数学オリンピック日本選手の初金メダリストなどが含まれている。

テーマは「自然数の和」。数学になじみのある人なら、「級数」といった方がピンとくるだろうか。1枚のプリントが配られ、中学3年生、2学期最初の数学の授業が始まった。プリントには設問の数式がいくつか書かれているだけで、あとは余白だ。一人で黙々と解き始める者、周囲の友人と相談するグループ、先生と会話しながら考える者、生徒たちはそれぞれ

のやり方で問題に取り組む。数学の堅苦しいイメージとは程遠い、賑やかな雰囲気だ。鈴木先生は、最初に考え方のヒントを与え、後はしばらく様子を見ている。すると、生徒たちから解法のアイディアが次々と飛び出してきた。

それらに耳を傾け、対話しながら問題を解いていく。1問目がわかれば、2問目は楽々・・・とはいかない。問題は少しずつ複雑さを増す。

1問目の考え方を解説した後は、途中まで解いて続きは生徒に任せたり、答えの分かった生徒に黒板で発表

させたりする。そうやって解き進めていくと、どうやらそれぞれの問題には互いに関係がありそうだ。その法則性に気付いた瞬間、教室のあちこちで歓声が上がった。自分で考え発見する体験は印象に残るものだ。

国内きっての進学校だが、中高一貫で高校受験がない分、中学3年生も伸び伸びとしている。一方で、自主的にどんどん勉強を進めていく生徒も多い。そのせいか、先生も驚くような斬新な考えが出てくるともしばしば。その驚きが楽しい。そこから話を広げて、知識を共有することもある。実は「級数」は中学で扱う範囲を越えている。それでも、あえて級数という言葉は使わず、代数の延長線上でステップ



を踏んで考えれば違和感なく理解できる。難しいことを学ぶのが目的ではない。発展的な学習はむしろ、基礎知識を定着させるのに役立つのだ。

教科書はほとんど使わず、演習や問題提起のためのプリントで授業を行う。板書だけのこともある。年間で学習しなければならない内容は決まっているが、個々の授業の進行計画、いわゆる「指導案」は臨機応変だ。生徒たちは思いついたことや発見したことを積極的に発言する。それらに対するディスカッションもオープンだ。その一見混沌とした中にある力が、数学が苦手な生徒をサポートし、数学オリンピックでメダルを取る生徒も育てる。

こういった、生徒主体のコミュニケーションに重きを置く授業では、計画通りに進めるよりも、議論が発散し過ぎないようにコントロールすることに腐心する。想定外の方角へ展開しても、その時の流れを大切にする。代数の中に幾何が入り込むなど、ユニークな発想が出てきたときに、それを止めないことが肝心だ。数学は理系科目の代表だが、昨今は、金融や保険など文系と考えられていた業種でも注目を集めている。生徒たちが将来、どの分野に進んでも、世界を広げてくれる学問だからこそ、その本質的な魅力を知ってほしいと願う。

鈴木先生にはもう一つ、大事な肩書がある。ハンドボール部の顧問だ。この学校に赴任して初めてハンドボールに挑戦したが、もともと陸上競技の選手だっただけに、跳んだり投げたりは得意だ。動きも速くなかなか激しい競技だが、今も生徒に交じってプレーする。ハンドボールは野球やサッカーと違って、ほとんどの生徒にとっては中学で初めて経験するスポーツ。みんなでゼロからスタートできるため、新入生でもすぐにボールに触れさせ、



競技の楽しさを感じられるようにしている。世田谷区では参加校が減って、数年前から地区大会ができなくなってしまったのは残念だが、校内では安定した人気のある部活動だ。最後の地区大会での優勝旗が校長室に残っている。

ハンドボールと数学に直接の接点はない。しかし、屋外でコートの白線を引くときには数学らしいこだわりが発揮される。ハンドボールのコートは40m×20mの長方形。全体を見渡せるサイズだけに、ちょっと歪んでいるだけでも意外と気になるのだ。きちんと直角がとれるように、ピタゴラスの定理を使って生徒たちと測量する。また、基本的なプレーは指導するが、それを実際にどう使うか、試合の戦術は生徒たち自身に考えさせる。「自分で考える」というスタンスは、授業も部活動も同じだ。

教師の役割は教えることではなく、自分で考え理解するための段取りを整えること。生徒のひらめきや発見をできるだけたくさんすくい上げ、数学は楽しいと感じられるような刺激を与える。「生徒が活躍する授業」、それが鈴木先生の理想。優秀だからといって単に任せきりではなく、日ごろの生徒に対する目配りも含め、彼らを活躍させるためにどんな「仕掛け」を教材の中に忍ばせておくかが、腕の見せ所だ。この賑やかな数学の時間が、その「仕掛け」がうまくいったことを示している。

「自然数の和」の授業は、用意した問題をすべて解き終え、生徒たちから出されたアイデアを振り返ったところで、ちょうどチャイムが鳴った。教室は相変わらず騒然としていたが、「解き方」ではなく「考え方」が腑に落ちる心地よさが残った。



濱本 悟志 副校長

子ども好きな鈴木先生は、実に多くの顔を持った「マルチ教師」です。発想を重視したリベラルな授業を行う数学教師の顔。生徒とともに箒を持って教室を掃除する担任の顔。グラウンドで手取り足取り熱心に実技指導するハンドボール部顧問の顔。そして、生徒の日々の活動を楽しく熱く語る教育者の顔。その姿は赴任以来27年間変わっていません。

高校時代は数学と陸上をこよなく愛するインターハイ選手とのこと。おそらく、ご自身が受けた教育の恩恵を後世に伝えるため、この道を選んだのでしょう。学校生活の三本柱であり、生徒の人格形成に多大な影響を与える「学業」「行事」「部活動」で、日本の良き伝統的な教育とリベラルな先導的教育の両方を実践しています。その姿に、改めて「教育は人なり」の重さを感じています。



井上和佳奈選手 世界選手権出場決定！

「周りからはオールラウンダーと言われるけれど、好きなのは床。くるくるひねっているのが大好きなんです!」と、いたずらっ子のような笑みを浮かべる井上和佳奈選手は、体育専門学群の1年生。体操競技部期待の星だ。10月7日から中国・南寧で開催される2014世界体操選手権で日の丸を背負う。

「大好きなウルトラマンのようになりたい」と、2歳から体操を始めた。全国高校総体で個人総合優勝など輝かしい実績を持つが、「オリンピック選手になりたい」などと考えたことはなく、小学生の頃からずっと体操が嫌いだったという。「中学生の頃一度辞めたこともあります。でも、今の環境がとてもいいので、嫌いじゃなくなりました。筑波大に入って本当によかった」と井上選手。

環境のよさは、部員の仲のよさと学生主体の指導という本学体操競技部の特色から生まれるもの。部員の仲の

良さについては、「すごくいい子たちなんです。みんなが支え合っています」と女子主将の小山愛選手(体育専門学群4年)が笑顔で話してくれたが、「練習はきつけれど、つらさを笑い話にするくらい楽しく盛り上げようと頑張っています」(小山主将)、「上下関係をなくして、なるべく話しやすい関係になれるようにと考えています」(小田勝朗男子主将・体育専門学群4年)といった、リーダーたちの気配りによるところも大きいに違いない。

学生主体の指導については、「他の大学は、高校までやってきたことをいったん白紙にさせて、そこのやり方で練習させるイメージがあります。筑波大は、個人個人がやってきたことを、そのまま花咲かせていけて、それがまとまってチームになっている感じ。そこがいいところだと思います」と小山主将がまとめてくれた。

体操競技部は、佐野淳部長、渡辺良夫男子監督のもと、齋藤卓男子コーチと金谷麻理子女子コーチらが指導に当たっている。「選手自身で考えて、工夫しながら身につけていくことが重要だと考えています。ただ、選手だけで考えると偏ったやり方になってしまうこともあるので、そこをア



小田勝朗主将と星野力維選手

ドバイスしたり、トレーニング方法を提案したりするのがコーチの役割です」と齋藤コーチ。選手の悪いところを直すというより、良いところをどこまで引き上げていくかということに力を入れているという。

体操競技は、器具は動かず、自分がどうできるかというスポーツなので、緊張などのメンタルが大きく左右する。選手たちだけで練習するとあまり緊張しなくなってしまうので、いかに本番のような緊張感を持たせて練習させるかもコーチの大きな役割だ。

部の目標は「全日本学生体操競技選手権大会(インカレ)団体総合優勝」。インカレでは、オリンピックや世界選手権と同様、男子は、床運動、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目、女子は、跳馬、段違い平行棒、平均台、床運動の4種目が行われる。そして団体戦は、6人1チームで演技して、上位5人の点数を合計して競う。1人だけ失敗が



井上和佳奈選手と小山愛主将



許されるが、1人が失敗すると、後に演技する人に「もう失敗できない」というプレッシャーをかけることになる。

取材日にはインカレを想定し、団体戦メンバーが、大会本番の種目順、出場順に演技し、「6人のうち5人が成功したら次の種目に移るが、2人以上失敗したら全員やり直し」という、精神的負荷をかけた練習を行っていた。

その後行われた本年度のインカレ団体戦の結果は男女共5位。表彰台には届かなかったが、井上選手は個人総合3位に輝き、小山主将が種目別平均台2位、星野力維選手(体育専門学群2年)が種目別床2位と活躍した。

「世界選手権より目の前のインカレ団体戦に集中している」と話していた井上選手だが、そのインカレが終わり、世界選手権の日が迫ってきた。「海外で、自分ができる最大限の演技ができたことがないので、世界選手権では、それをどうしてもやり遂げたい」と心に期していた井上選手の活躍に期待したい。

井上和佳奈選手

Information

前身の師範学校から140年を越える歴史を有し、オリンピックの金メダリストを始め、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会。主な競技成績および今後の試合日程を紹介しますので、ぜひ、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【つくばスポーツ ONLINE】 <http://www.sports.tsukuba.ac.jp/>
【筑波大学体育会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

陸上競技部

2014日本学生陸上競技個人選手権大会

男子【110mH】優勝 大室秀樹(人間総合 体育2)
女子【800m】優勝 平野綾子(体育2)【400mH】優勝 松田絵梨(人間総合 体育2)

第83回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子総合優勝(6年連続24度目)

男子【3000mSC】優勝 津田修也(体育3)【走幅跳】優勝 嶺村鴻汰(体育4)
【走高跳】優勝 衛藤昂(人間総合 体育2)【ハンマー投】優勝 保坂雄志郎(人間総合 体育1)
女子【4×400mリレー】優勝 伊藤明子(体育1)、松田絵梨(人間総合 体育2)
松原恵(体育2)、神保祐希(体育1)
【走幅跳】優勝 中野瞳(人間総合 体育2)【棒高跳】優勝 榎本優子(人間総合 体育1)
【やり投】優勝 久世生宝(体育2)大会新記録
【ハンマー投】優勝 勝山眸美(体育2)【七種競技】優勝 松原恵(体育2)

第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 10/13 仙台市

第98回日本陸上競技選手権大会リレー競技 10/31~11/2 日産スタジアム(神奈川)

第91回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会

10/18 陸上自衛隊立川駐屯地→立川市街地→国営昭和記念公園

男子バスケットボール部

第54回関東大学バスケットボール新人戦 優勝

【新人王】馬場雄大(体育1)／【優秀選手賞】満田丈太郎(体育2)、杉浦佑成(体育1)

第90回関東大学バスケットボールリーグ戦 10/4~26 つくばカピオ他

第66回全日本大学バスケットボール選手権大会 11/24~30 国立代々木第二体育館他

ラグビー部

2014年関東大学ラグビー対抗戦A 9/13~12/7 秩父宮ラグビー場他

体操部

全日本学生ラート競技選手権2014

【男子個人総合】優勝 相原奨之(体育4) 【女子個人総合】優勝 松浦佑希(体育4)
男子【直転】優勝 北島瑛二(体育3)【斜転】優勝 相原奨之
女子【直転】優勝 松浦佑希
【団体戦】優勝 筑波大学A 相原奨之、小出奈実(人間総合 体育1)、星野崇(シス情 知機1)、松浦佑希

全日本ラート競技選手権2014 12/12~14 つくば市桜総合体育館

柔道部

全国国立大学柔道優勝大会 優勝(10年連続30度目)

2014世界柔道選手権大会 【団体戦】優勝 永瀬貴規(体育3)

全日本学生柔道体重別団体優勝大会 10/25、26 ベイコム総合体育館

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 11/8、9 千葉ポートアリーナ

漕艇部

第41回全日本大学選手権大会

【男子ダブルスカル】優勝 内藤草太(情科4)、越智寛太(体育3)

2014アジアジュニアボート選手権

【女子ダブルスカル】優勝 小原有賀(体育1)

硬式野球部

2014年秋季首都大学野球連盟リーグ戦 10/4~10/19 柏の葉公園野球場他

蹴球部

第88回関東大学サッカーリーグ戦 10/4~11/15 古河市立古河サッカー場他

ハンドボール部

男子第57回・女子第50回全日本学生ハンドボール選手権大会

11/22~26 岐阜メモリアルセンター他

全日本総合ハンドボール選手権大会 12/24~28 愛知県体育館他

女子サッカー部

第28回関東大学女子サッカーリーグ 10/25~11/23 つくばアカデミーセンター他

水泳部

第69回国民体育大会水泳競技大会

【女子100m背泳ぎ】優勝 諸貴瑛美(体育4)

“海の楽しさを伝える”スキndaイビングサークル



海洋研究会は、大学の発足と同時に創部された歴史あるサークル。創部当時は魚や海底の地形などの研究活動もしていたが、現在は「海の楽しさを伝えよう」を合言葉に、スキndaイビングを楽しんでいる。

スキndaイビングとは、ボンベなしで水中遊泳するウォータースポーツ。スキューバダイビングとの違いは、生身の体で海を楽しむこと。水着とシュノーケル、マスク、フィン(足ひれ)があればできるので、お金もかからない。

現在部員は50人ほど。学期内の活動は週1回のミーティングと月に数回の室内プール練習、高尾山登山やクリスマスコンパなど月1ペースで企画するお楽しみイベント、学園祭での「水族館」および「屋台」の出店。活動が一番盛り上がるのは夏休みで、毎日屋外プールで練習を重ね、伊豆諸島の式根島で1次合宿、沖縄の島(本年度は石垣島)で2次合宿をそれぞれ1週間ほど行う。

水深5mの屋外プールがあり、フィンを使った泳ぎの練習や耳抜き練習など、実践的な練習ができるのは本学ならではの。



Information

筑波大学には、約40の文化系サークルが所属する「文化系サークル連合会(文サ連)」と、約30の芸術系サークルが所属する「芸術系サークル連合会(芸サ連)」という、大学公認の学生組織があります。

このコーナーでは、こうした文化系・芸術系サークルによる公演や、学園祭などのイベント情報、各種表彰・コンテスト結果などをお知らせします。(詳細は下記ホームページをご参照ください)

【文化系サークル連合会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

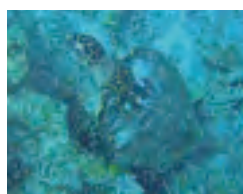
【芸術系サークル連合会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>



スキューバダイビングには一般的な泳ぎ方と違うコツがあるので、上級生がマンツーマンで1年生を指導する。安全を考えて、最低300m泳げることと、1次合宿には10回、2次合宿には15回のプール練習が参加条件になっている。この他、消防署で人工呼吸や海難事故についての講習を受け、海の危険生物を覚えたら、いよいよ合宿だ。

海に潜るときには、上級生と下級生4人一組で行動。2人ずつペアになり、交互に潜る。サンゴ礁や熱帯魚に触れないように気をつけながら、1回のダイブで2分半くらい魚を見たり、一緒に泳いだり。休憩タイムにはどんなポイントに、どんな魚がいたかを記録する。沖縄の島でよく見る魚は30～40種類、図鑑で調べる魚は数知れない。

表情豊かなサンゴ礁や岩場の上を、色鮮やかな熱帯魚と一緒に泳いで



やめられない。OBの多くは卒業後も続けていて、合宿にもたくさん参加してくれる。世代の違う方との交流も合宿の楽しみの一つ」と坂井隆太郎会長(医学専門学群看護学類3年)。

うまくなれば、スキューバダイビングでも水深15mくらいまで潜れるようになるそう。坂井さんが一番感動したのは、「水深15mのところで1m30cmくらいのナポレオンフィッシュに出会ったとき」だという。

9月の終わりから10月にかけては、週末を使って伊豆の海に出かけ、学園祭に出す「水族館」の魚を採集する。漁業許可を得たり、寒い時期に泳いだりするのが大変な上、魚を採ることも、

ぐ、日常空間から隔絶された青い世界。「海の魅力を一度知ったら

元気なまま持ち帰って学園祭まで飼育することも大変難しい。採集するのは冬を越せない「死滅回遊魚」だが、学園祭の後には海に戻しに行くので、その手間や経費もかかる。

とても大変な催し物だが、インパクトがあり、毎年楽しみに来てくれる親子連れもいて、OBに協力してもらいながら継続している。

そんなメンバーの頑張りに応えて、今年の学園祭では、ぜひ「水族館」(1B棟)に足を運び、じっくりと観察してほしい。



雙峰祭

第40回筑波大学学園祭
本年度テーマ「筑波織り」
11/1～3日(場所/本学内)

混声合唱団

第39回定期演奏会(40周年記念)
12/7(場所/浅草公会堂)

舞踏研究会

第59回全日本学生競技ダンス選手権大会
12/7(場所/浦安市運動公園総合体育館)

ときめき太鼓塾

筑波大学ときめき太鼓塾単独公演「颯奏」
11/26(場所/つくばカピオ)開演:19:00
入場無料

男性合唱団 メンネルコール

つくば市民文化祭音楽会
11/2(場所/ノバホール)13:00～
入場無料

合唱団むくどり

第34回定期コンサート
10/10(場所/つくばカピオ)開演:19:30
入場無料



マッサワ港



アスマラ



見る場所によって形が違うテキロ山(南側)



テキロ山(北側)



エリトリア鉄道

気です。標高2350m〜0mの高低差があるため、約110km、2時間ほどの行程で、高山気候帯から熱帯気候帯まで、次々変わる美しい景色を眺めることができます。

貴重な遺跡と 絶好のダイビングスポット

エリトリアは、1991年に独立を宣言した若い国ですが、人類の歩みとほぼ同じ、2万年にもおよぶ歴史があり、洞窟に描かれた岩絵が残っています。また、紅海に面した交易・軍事の要所なので、古代よりさまざまな勢力が攻め込んできては文明を築いたため、貴重な遺跡がたくさんあります。

私は毎年、生徒を連れて、古代港町アドゥリスや、紀元前500年の都市コハイトなどの遺跡にフィールドワークに行っていました。コハイト遺跡からアンバソイラなどの山々を望む景色も素晴らしいです。

また、エリトリアには、紅海に沿って1350km以上の海岸線があり、紅海の領海内には、ダハラク諸島など約350の島があります。調査やフィールドワーク、旅行で、そのうち35くらいの島に行きましたよ。

素晴らしいダイビングスポットがたくさんあり、透き通った海の中は、色鮮やかな魚やサンゴ、イソギンチャクで、とてもとても美しいです。

食事とコーヒーセレモニーで 家族の絆を深める

エリトリアには、9つの民族がいて、それぞれに言語を持っています。私は全体の55%を占めるティグリーニヤです。

幼稚園と小学校では、それぞれの言語で授業が行われ、科目のつとして英語を勉強します。中学校からは全ての授業が英語になるので、高校生くらいになると、皆、英語で完璧にコミュニケーションが取れるようになっていきますね。

エリトリアでは、祖父母だけでなく、叔父・叔母まで、大きな家に族で暮らします。家族で過ごす時間を何よりも大切にされていて、毎日、19時頃から1時間くらいかけて食事をし、20時から22時頃までコーヒーセレモニーをして、家族での会話をたっぷり楽しめます。

主食のインジェラは、スパイシーでちよつと酸味のあるソフトなパン。肉料理や野菜料理をのせて食べます。このインジェラは大皿に盛り、手で取り分けながら食べます。全員がつの皿から食べることで絆を深めると考えているので、小皿を使うことは好みません。

コーヒーセレモニーは、日本の茶道のように、コーヒーを飲むことを儀式化した伝統的な習慣で、家の主婦が行います。コーヒーの生豆を煎るところから始まるセレモニーを眺めながら、じっくり語り合う時間を持つのです。家族のコミュニケーションを取るとてもよいやり方だと思っています。

最後に、エリトリアでメジャーなスポーツについて言。サッカー・自転車競技・陸上で、それぞれ、世界的な選手がたくさんいます。自転車のエリトリアナショナルチームは、「自転車ロードレースアフリカ大会」で3年連続チャンピオンになりました。

私が好きなのは、サッカー。特に、審判をするのが趣味です。日本にいる今も、J2、J3リーグで、月2回くらいレフェリーをしているんですよ。



コーヒーセレモニー



コーヒーセレモニーに使う
ジャバナ(ポット)



市場の様子

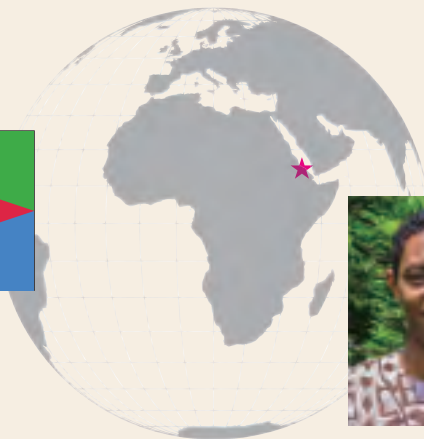


Homeland

本学には、100を超える国から、約3千人の留学生が訪れています。
このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。



エリトリア国



マイケル アセハウ

Michael Assefaw さん

所属: 生命環境科学研究科 環境科学専攻 博士前期2年
趣味: サッカーのレフェリーをすること (J2、J3リーグ審判員)
サッカーをすること・読書・音楽



私は、アディ・ケイ人文社会科学大学で地理学を教えていましたが、エリトリア人で初めて文部科学省の国費外国人留学生制度を利用して日本にきました。現在筑波大学でただ1人のエリトリアからの留学生として、ぜひ、皆さんに私の国のことを知ってもらいたいと思います。

「アフリカのローマ」首都アスマラ

エリトリアの広さは北海道と九州を合わせたくらい。高低差があり、最高峰のアンバソイラ(ソイラ山)は標高3018m。一方、ダナキル低地には、海面下116mの地点があります。

気候や風土も高地と低地の大きく2つに区別でき、私の実家は、高地にある標高2350mの首都、アスマラにあります。年間を通じて気温は15〜25度、湿気もほどよく、年中快適に過ごせます。冷暖房は必要ありません。

アスマラには、イタリアの植民地だった時に作られたイタリア・アールデコ様式の建物が世界有数の規模で残っているため、「アフリカのローマ」と呼ばれています。快適な気候と、色鮮やかな花々に彩られたヨーロッパ風の街並みに魅かれて、たくさんの観光客が訪れます。アフリカで一番クリーンな街としても知られ、治安も良く、いい街ですよ。

アスマラの次に大きい都市マッサワは、低地にある港街。近郊にはマリニリゾートもあります。とても暑く、夏には40度を超えることもあります。

アスマラからマッサワまでは、「2時間で3つの季節が体験できる」とPRしているエリトリア鉄道の蒸気機関車が走っていて、観光客に人



インジェラ



伝統的なインジェラ入れ



コハイトでのフィールドワーク風景



アンバソイラでのフィールドワーク風景

地域貢献



芸術の発想力を活かした震災復興支援

創造的復興 (Creative Reconstruction: CR) プロジェクトは、芸術系を中心に多領域にわたる専門分野 (医学医療系、システム情報系、人文社会系など) の教員や学生と協働して活動しています。東日本大震災の被災地において、地域文化や文化財の復旧、教育の支援活動、街並の復旧などの多様なニーズに応えると同時に、「繋ぐ力」「情報発信力」「突破力」を備えた学生の育成を目的とした本学ならではのプロジェクトです。

「創造的復興支援教育プログラム」は、2012年度から実施しています。複数の学類の専門科目となる科目を用意し、学生は所属する学類の卒業単位とすることができ、現在受講している半数が芸術の学生で、その他は多領域の学生です。

科目は、被災地で活動する活動家などを招聘する「視点構築論」「災害精神支援学」などさまざまな柱はセットで受講する「視点構築演習」と「チャレンジ学外演習」です。教員と学生がチームを作り、「視点構築演習」でリサーチや話し合いをした後に、その結果を踏まえて「チャレンジ学外演習」で実践します。

9つあるチームの1つ「大熊町チーム」は、國安孝昌教授と宮原克人准教授 (共に芸術系) が率いる学生19人のチー



ムです。福島県大熊町から会津若松市に避難し、城北小学校北応急仮設住宅に暮らす被災者や周辺地域の方と一緒に夏祭りを開催する活動をしています。

8月10日には、3度目となる「おおくまつくば夏祭り」を実施しました。丸太で組んだ巨大な櫓 (やぐら) を中心に、やきそば・かき氷・ヨーヨーなどさまざまな屋台が建ち並び賑やかなお祭り会場を設営。子どもみこしや盆踊りも行い、避難者や地域の方がたくさん参加しました。

同仮設住宅は、改築して復興住宅になるため、避難者の多くは定住することになります。そうした中、避難者が地域の人たちとどう馴染んでいくかが大きな課題となっています。この夏祭りは、避難者を活気づけることに加え、地域住民と交流する場を提供しているという点で、たいへん意味のあるプロジェクトです。

「大熊町チーム」のように、チームの多くは2012年度から継続しており、年を追うごとに現地との信頼関係が築かれて「今年もやってくれるはず」という期待感が生まれています。東日本大震災の風化が懸念されている昨今ですが、CRプロジェクトは、今後よりいっそう充実した活動を展開していくに違いありません。



映画「いわきノート」

CRプロジェクトから生まれた映画が「いわきノート」です。授業時間数には限りがあり、活動が限定されてしまうため、授業というフレームをはずした有志の復興支援プロジェクトを立ち上げ、学生11人が「福島の人たちの声を世界に届ける」というコンセプトでドキュメンタリー映画を制作しました。学生たちが50人以上の被災者にインタビュー

し、暮らしぶりや現地の風景とともに記録した90時間にもおよぶ撮影素材を、プロの編集者が90分ほどにまとめたものです。

この「いわきノート」は、つくばや東京、大阪などで劇場公開され、大きな反響がありました。今後も、日本各地での自主上映会の開催や国際映画祭への参加、web展開などを計画しています。

詳細は「いわきノート」ホームページ参照 <http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~cr/iwakinote/>



発見しよう理系の魅力！ 繋がろう理系仲間！ in Tsukuba 2014

TOPICS



ダイバーシティ推進室では、女子中高生やその保護者を対象に、理系の魅力を感じ、リケジョ仲間をつくることを目的として、毎年、夏休みサイエンス体験合宿「発見しよう理系の魅力！繋がろう理系仲間 in Tsukuba」を開催しています。今年度は8月6日～8日に実施し、全国から107人の女子中高生が参加しました。1日目は女性科学者と語り合う「ラウンドテーブルカフェ」、2日目はラボを訪問して実験体験を行う「1日サイエンス体験実験」、夕食後には

大学生・大学院生の企画する「交流会」「グループワーク」、夜は同室の参加者や女子大学生と語り合うなど、3日間に及ぶ盛りだくさんのプログラムにもかかわらず、皆、元気に積極的にプログラムに取り組んでいました。参加者からは「これまで以上に理系への興味が高まった」「将来、理系に進学したい」という声が聞かれます。来年も、もっともっと理系が好きになる魅力的なプログラムとなるように工夫しながら、「リケジョ仲間」を増やしていきます。

ラウンドテーブルカフェ

女性科学者と仕事やライフスタイルについて語り合いました。お茶やお菓子が並ぶテーブルで、リラックスした雰囲気の中、「リケジョ先輩」である女性科学者の進路や将来についてのアドバイスを、みんな熱心に耳を傾けていました。



1日サイエンス実験体験

17の研究室の提供するラボ実験は、中学や高校の授業では経験したことのない最先端の研究に触れる機会となりました。先生やTAに囲まれた実験体験を通して、女子中高生たちの理系への関心をさらに高めていました。



交流会・グループワーク

宿泊先のホテルでは、リケジョ仲間の交流を図るため、ゲームやグループワークを行いました。「新聞積み上げ競争」や実験器具などの写真を見て、それを絵で伝える「伝言ゲーム」などを通して、生徒たちはリケジョの輪を広げていました。



藻類バイオマス・エネルギー 大規模実証施設見学

藻類からオイルを生産する技術開発をしている施設を見学し、ラボを主催する渡邊先生やスタッフの先生方より講義を受けました。生徒達は最新の技術に目を輝かせながら説明を聞いていました。



アメリカと台湾に海外拠点

7月24日に、新たな海外拠点として、米カリフォルニア大学アーバイン校(UCI)に「筑波大学アーバインオフィス」を、国立台湾大学に「筑波大学台湾オフィス」を開設しました。本学の海外拠点は11カ国・12カ所目となります。

この2つの大学は、学外に本学のキャンパスを創成し、学内に海外組織のキャンパスを創成する「キャンパス・イン・キャンパス」構想の実現に向けて、科目ジュークボックスモデル構築を協働で進める主要大学です。



台湾オフィス開所式の様子

筑波大学・AISTS連携協定調印式および「国際スポーツアカデミー」シンポジウムを開催

7月26日に、「筑波大学・AISTS連携協定調印式」と、国際スポーツ界をリードする人材の養成を目指して2015年10月に開設する博士前期課程プログラム「つくば国際スポーツアカデミー」についてのシンポジウムを行いました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて文部科学省が実施する「スポーツ・アカデミー形成支援事業」を、本学が受託したことに関連して開催したものです。

シンポジウムでは、アカデミー長に就任する真田久

教授(体育系)からの概要説明やイアン・ヘンリー英国・ラフバラ大学教授の2012年ロンドンオリンピックレガシーをテーマにした基調講演などが行われました。



筑波大学・AISTS連携協定調印式の様子



永田恭介学長とジャン・アンダー・マンソンAISTS会長

「筑波大学GFEST」スタート

本学は平成26年度の「グローバルサイエンスキャンパス」に採択され、「未来を創る科学技術人材育成プログラム:筑波大学GFEST」をスタートさせました。

グローバルサイエンスキャンパスとは、「将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成する」ことを目的とした独立行政法人科学技術振興機構(JST)の事業です。採択された大学はそれぞれ卓越した意欲・能力を有する

高校生等を募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な、理数教育プログラムの開発・実施していくことになります。

筑波大学GFESTでは受講生それぞれの目的と資質に合わせた2つのコース(SSコース・科学トップリーダーコース)を用意しています。(詳細については筑波大学GFESTのサイトを参照ください。<http://gfest.tsukuba.ac.jp/>)



本学ではGFEST以前から、スーパーサイエンスリーグ(SSリーグ)で、優れた自主研究を行っている小、中、高生を支援してきた。上の写真はSSリーグ生が「つくば科学研究コンテスト」で研究発表している様子(2012年3月)

A group of students in school uniforms are sitting on a grassy area in front of a red building. Two girls are standing and talking, while three boys are sitting on the grass. The building has a red facade and a staircase.

校生たちは、プラズマ研究センターや計算科学研究センターを見学したほか、キャンパス内の留学生に声を掛けるなど、積極的な取材活動を繰り返していました。

「筑波大学を巡るコース」に参加した高



—— 客員教授・広報室コンサルタント 亀谷 賢 ——



受賞 Awards and Prizes

WACKER Silicone Award 2014 を受賞

関口章教授(数理物質系)が、有機ケイ素化学研究において顕著な業績を収めた科学者に贈られる「WACKER Silicone Award 2014 (ワッカーシリコン賞)」を受賞しました。

ワッカーシリコン賞は、ドイツ連邦共和国を拠点とする世界的な化学会社Wacker Chemie AGが1987年に設立した国際賞で、米国化学会のキッピング賞と並んで有機ケイ素化学分野で最も栄誉ある賞とされています。授賞式は2014年8月4日、ドイツ連邦共和国ベルリン市で開催されたISOS XVII BERLIN 2014 – The 17th International Symposium on Silicon Chemistry (7th European Silicon Days併催)において行われました。

関口教授は、今日まで一貫して低配位有機ケイ素化学の研究に取り組み、

250報以上の論文を発表しています。中でも、2003年のケイ素-ケイ素三重結合化合物(ジシリン)の合成は、20年以上にわたる研究の末、それまで不可能とされてきた反応を世界で初めて実現し、ケイ素化学における極めて画期的なマイルストーンとして化学の歴史に名を刻みました。また、官能性二重結合ケイ素化合物の合成、ケイ素陽イオン(カチオン)および安定なケイ素遊離基(ラジカル)の合成、テトラシラシクロブタジエン遷移金属錯体の創製など、未踏の有機ケイ素化学の開拓に多大な貢献をしてきました。さらに近年は、ケイ素ラジカルを活用した新しいタイプの蓄電池の開発にも成功しています。

これらの業績が認められ、今回の受賞となりました。



授賞式でスピーチをする関口章教授

主な受賞等一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
Marquis Who's Who in the World 2014 (31st Edition)	Marcos Antonio das NEVES助教(生命環境系)	_____
第13回島田謹二記念学藝賞	加藤百合准教授(人文社会系)	_____
第18回超伝導科学技術賞	堀米仁志教授(医学医療系)	_____
	加藤愛章講師(医学医療系)	
安藤博記念学術奨励賞	都甲薫助教(数理物質系)	_____
独立行政法人日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞	中井直正教授(数理物質系)	_____
2014 IEEE International Conference on Fuzzy Systems 功労賞	イリチュ(佐藤)美佳教授(システム情報系)	_____
Achievement Award in the Field of Energy Efficient Networking Systems	西川博昭教授(システム情報系)	_____

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
Best Presentation Award 第12回国際精子学シンポジウム	柴小菊助教(生命環境系、下田臨海実験センター)	_____
サン・イグナティオ・ロヨラ大学名誉教授の称号	磯田正美教授(人間系)	_____
日本感性工学会 論文賞・技術研究賞・事例研究賞	山田博之助教(芸術系)	_____
日本感性工学会 出版賞	「筑波大学感性脳科学研究プロジェクト」 久野節二教授(医学医療系) 山田一夫准教授(人間系) 尾崎繁講師(医学医療系) 内山俊朗准教授(芸術系)	_____
日本ロボット学会 ロボット活用社会貢献賞 2014年度計測自動制御学会フェローの称号	山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター)	_____
第34回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム 優秀演題賞	沓村憲樹准教授(国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIRS))	_____
独立行政法人日本学術振興会 平成25年度特別研究員等審査会専門委員および 国際事業委員会書面審査員の表彰	鈴木博章教授(数理物質系)	_____
第25回つくば賞	宮崎修一教授(数理物質系)	_____
Laval Virtual Awards	星野聖教授(システム情報系)	_____
	浜松慶多 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻 博士前期2年)	星野聖教授(システム情報系)
日本デザイン学会グッドプレゼンテーション賞	工藤真生研究員 (システム情報系 知能機能システム専攻川崎真弘研究室)	_____
新規素材探索研究会 第13回セミナー 新規素材探索研究会奨励賞	須藤恵美(生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 博士前期1年)	繁森英幸教授(生命環境系)
第14回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞	加藤尚子 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻 3年制博士3年)	近藤正英准教授(医学医療系)
第22回原子力国際会議(ICONE-22) Student Paper Competition Best Poster Award	加藤由幹 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期1年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子准教授(システム情報系) 金川哲也助教(システム情報系)
	齋藤慎平 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期1年)	
2014 Tsukuba Nanotechnology Symposium(TNS' 14), Best Poster Award Chirality 2014 Best Poster Award	川島裕嗣 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士後期3年)	後藤博正准教授(数理物質系)

※所属、職名、学年は受賞時

システム情報工学等技術室
小野雅晃さん

2年ほど前からジョギングを始めています。人間ドックで脂肪肝と言われて、一念発起したのがきっかけです。妻がアスリートクラブに入会していて、マラソン大会にも出たので、夫婦で一緒にやろうということになりました。



最初はウォーキングから始めて、段々と走れるようになってきました。今では10km位の距離ですが、つくばマラソンにも出るようになりました。ただ、歳のせいか、色々とけがもしています。先日、蜂に襲われて腰を痛め、残念ながら1ヶ月半ほど走れなくなりました。これからも故障に気をつけて、いよいよ将門ハーフマラソン、つくばマラソン等に挑戦したいと思います。

今回は、システム情報工学等技術室の雨谷恵さんです。
「趣味で養蜂や家庭菜園をなさっています。個人的に養蜂をなさっている方は珍しいのではないのでしょうか？」

医学医療エリア支援室
佐藤菊枝さん

私の趣味は、ガーデニングという聞きは良いのですが、どちらかというと庭師さんと言った方が良いような職人的な感じです。帽子をかぶり、顔を布で覆い、黒装束に身を包み、日差しを避けながら、電気のかざりと剪定鋏を手にし、梯子を掛けて枝の処理、植木の刈り込みと、趣味にしてはあまり恰好の良いものですが、手入れされた庭を眺める時は、心の景色まで変わった気が致します。想いを形にする、自然であれ、言葉であれ、行動であれ、してみないとどの景色も変えられないのですね。



今回は、医学系技術室(医学教育企画評価[PCME]室)の菅江則子さんです。
「私が携わっておりますコミュニケーションで凄く力になっていただいています」



教育推進部
教育機構支援課
中上聡夫さん

月に一度、大学時代の友人と都内でバンド活動をしてい



ます。バンド自体もですが、その後の友人たちとの打ち上げが楽しみです。新宿近辺で練習後に行った「90年代J-POP居酒屋」では、往時のTKサウンドを何度もリクエストして盛り上がりました。また先日は、秋葉原での練習後、歌って踊れる居酒屋で「ももいろクローバー」をリクエストしたところ、外国の団体観光客の方も含め非常に盛り上がりました。アラ35のJ-POP全盛期世代(自称)、サイリウム、そしてインターナショナルな「行くぜっ!怪盗少女」ダンスと、これこそ「Cool Japan」と実感した大変楽しい打ち上げでした。

今回は、数理物質エリア支援室の富岡有子さんです。
「旧国際企画課で2年間ご一緒させていただきました。どんな難局も笑顔で乗り越えていく頼りがいのあるお姉様です」

人間系准教授
宇佐美慧さん

周囲の先生方・事務の皆様のご支援のおかげで、筑波大学に着任してから5か月間、充実した日々を過ごさせていただいています。ま



だまだ新しいイベント続きで時間の管理には少々手を焼いていますが、時間を見つけてはランニングに励んでいます。10月末には大阪マラソンを控えていますので練習にも熱が入ってきました。研究環境のみならず、ランニング環境も整っているつくばですが、まだ大学付近や市内を走ったことはありません。息が切れた情けない姿を学生さんに見られるのが恥ずかしいからでしょうか。新しい環境への適応力も大事ですが、まずは体力をつけたいと気持ちが高ぶります。

今回は、ビジネスサイエンス系准教授の尾崎幸謙さんです。
「同じ研究領域の先輩にバトンタッチいたします」

附属久里浜特別支援学校
教諭

稲本純子さん

この春から附属久里浜特別支援学校でお世話になっています。東京で生まれ育ち、これまで、ずっと東京に住んでいたのですが、朝、窓を開けると聞こえる久里浜港の船の汽笛、海の明るい陽射しが、とても嬉しいです。お天気のよい朝は、時々、クロスバイクで海岸沿いを走り、学校に向かいます。自転車で走りながら、海の風が心地よく、天気や風の強さや向き、季節の感じなどで、毎日違う海の様子を眺めるのが楽しみのになっています。(今までの満員電車での通勤が幻のようです。) また、週末、山登りを始めて、この夏、初めて、北岳と磐梯山に登りました。海と山を楽しんでいます。



今回は、附属視覚特別支援学校教諭(特別支援教育研究センター)の宮崎善郎さんです。
「社会人大学院時代のクラスメイトの方です。また、筑波で再会できました」

人文社会系教授
山中弘さん

4年間の学類長のお役が終わり、現在、社会復帰に向けて心身ともにリハビリの最中です。リハビリには、体を動かすこと、自然に触れること、おいしい肴でお酒を飲むことが最適と考えて、日々、努力をしています。柄にもなく、バラを育てるまねごとにも少しずつ挑戦したりしています。筑波は、こうしたリハビリには格好の場所だと実感しています。今年の春に、九州の霊峰英彦山に大学院生たちと一緒に登りました。途中で道に迷い冷や汗をかきましたが、なんとか無事に戻ってきました。近いうちに、もう一度、英彦山にリベンジしてみたいと思っています。



今回は、生命環境エリア支援室の栗原宏太さんです。
「学類長時代、助けていただいた新婚さんのスポーツマンです」

TSUKUBA COMMUNICATION

生命環境系教授
林久喜さん

大学病院の石川先生からバトンを受けました。非統合失調症患者さんの治療プログラム、デイケアで農林技術センターを利用いただいております。作物を栽培し、収穫・調製して販売にまでつなげ、患者さんが達成感と喜びを得られたらいいなと思っています。今年の1月からウェルシュ・コーギーを飼いはじめました。昔は人の所有物としてとらえられていたペットですが、現代社会では飼い主と時間や空間を共有することで、精神的にも健康的にも良い影響を受ける伴侶として、Companion animalと呼ばれるそうです。私も、家族が一人増えたと実感しています。



今回は、人文社会系教授の黄順姫さんです。
「学生の世界展開を視野に、この秋に新設科目『グローバル共存・共生』を立ち上げ、元気いっぱい、魅力ある先生です」

システム情報エリア支援室
若林森彦さん

職員になってから新しく始めたスポーツは、テニス、バドミントン、サッカー、ライブ等々。正直、高校や大学の頃よりも沢山体を動かしているような気がします。これまで敬遠していたスポーツも実際にやってみると楽しく、体を動かすことで良い気分転換になっています。ただ最近では筋肉痛が遅れて出てくるため、何日か続けて運動すると、この足の痛みが昨日のランニングで、腕の張りが一昨日のバドミントンで…腹筋が痛いのはいつのだろう?と分からなくなることもしばしばです。夏からは時々ですがジムに行き始めたので、スポーツの秋に向けて筋肉痛が出ないように鍛えたいと思います。



今回は、生命環境エリア支援室の永元美月さんです。
「旅行やスノボが好きなども活発な女性で、常々見習いたいと思っています。また一緒にお仕事しましょう!」

※所属、職名は2014年9月現在



本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

〔茗溪会とは〕 一般社団法人茗溪会（江田昌佑理事長）は、筑波大学同窓会を母体とする社団法人で、1882年に設立されました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校（東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など）の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4千人を越え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

茗溪会の筑波大学支援事業の一つとして、今年で10回目となる学生活動支援助成金の目録贈呈式が7月10日に筑波大学学長応接室において、江田昌佑茗溪会理事長から永田恭介学長に贈呈されました。引続き、総合交流会館において、江田理事長から各団体の代表者（13団体）に助成金決定通知書が手渡されました。助成金が交付された団体は、次の13団体でした。

オリエンテーリング部／ライフセービング部／応援部WINS／つくばろぼっとサークル／学び場さくら塾／筑波大学宇宙技術プロジェクト／HSCaT／筑波学生文芸賞運営委員会／平成26年度筑波大学学園祭実行委員会／つくば院生ネットワーク／ふるさとつくば ゆいまつり実行委員会／筑波大学大学院野球コーチング論研究室／筑波大学附属病院前ガーデンプロジェクト

茗溪会学生活動支援団体からの報告

つくばろぼっとサークル

須山 晃（理工学群工学システム学類3年）

つくばろぼっとサークルは、本年度前半の活動として、「つくばチャレンジ」への取り組みと「はんだ付け講習会」を行いました。

「つくばチャレンジ」は、自律的な移動ロボットの技術の開発のため、多くの研究・開発グループが集まって行う公開実験です。私たちは、大清水公園内を自律走行することを目指して、ロボットの改良、回路の製作、プログラムの改良などを行っています。本年度前半には2度の実験走行を行い、大清水公園のデータを取得しました。「つくばチャレンジ」参加団体のほとんどは研究室や企業で、とてもレベルが高い研究開発を行っています。私たちは学生サークルであ

りながらも、その参加団体に負けないように努力をしています。

また、「はんだ付け講習会」では、はんだ付けだけでなく、機体の製作方法、回路の組み方や作り方を指導し、作った回路に自分たちでプログラムを書いてもらって、ロボットを製作しました。さらに、でき上がったロボットで、ライントレースと空き缶の回収を行いました。

ロボットへの興味がある学生たちに、実際にロボット製作を経験してもらうことで、「ロボットに



興味があるけれど何をすればいいかわからない」という状況をなんとかできたのではないかと思います。

8月末には来年度のNHK大学ロボコンのルールが発表されます。昨年度の一次ビデオ審査通過以上の成績を目指して頑張ります。



ライフセービング部
茨城県銚田市大竹海岸海水浴場監視救助業務



応援部WINS
体育会所属団体の応援活動、スポーツ・デーなど学内行事の広報活動、つくばマラソン等つくば市内の行事の応援活動



学び場さくら塾
小・中・高生対象に無償の塾を運営



筑波大学宇宙技術プロジェクト
ハイブリッドロケットおよび小型模擬衛星の開発



HSCaT
学内宿舍敷地内に生息する猫の保護・管理およびTNR(避妊・去勢手術)活動



平成26年度筑波大学学園祭実行委員会
第40回筑波大学学園祭「雙峰祭」の開催



つくば院生ネットワーク
「プレゼンひろば」と「駅前キャンパス」の開催



筑波大学大学院野球コーチング論研究室
星空野球教室の開催

茗溪会のつくば公開講座

筑波地区の公開講座は、茗溪会と筑波大学、学都資金財団の共催で開催されます。

第2回 日 時：11月29日（土）14時から
会 場：筑波研修センター（大学循環バス「メディカルセンター病院」下車10分）
講 師：西川綾子先生（水戸植物公園園長・NHK趣味の園芸講師）
題 目：《年末・年始に楽しむ寄せ植え鉢花の栽培と管理》

第3回 日 時：12月13日（土）14時から
会 場：筑波大学大学会館国際会議室
講 師：熊倉功夫先生（静岡文化芸術大学学長）
題 目：《茶の湯にみる日本の生活文化》

〔問い合わせ先〕茗溪会筑波事務所 029-850-1044



本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

〔紫峰会とは〕 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とその他の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

紫峰会の事業において、課外活動や行事への支援は大きな柱になっています。

一方で、課外活動に参加していない学生にも紫峰会のサービスを提供できるように始めた事業がパーソナルサポート事業です。

今回は、このパーソナルサポート事業の一環として提供している、PCを使用してのプリントアウトサービスと大判プリントサービスを紹介します。

■ プリントアウトサービス

紫峰会では、印刷サービスの延長としてコピーサービスを始めました。当初は、コンビニエンスストアくらいにしかコピー機が設置されていなかったため、学生から大変喜ばれました。

90年代後半から、Windowsの普及やパソコンの低価格化により個人でもパソコンを持っている学生が多くなりました。そこで1999年に、追越店のリニューアルに合わせて、フルカラーA3対応のフルカラーレーザープリンターを導入。出力用の端末としてWindowsとMacも合わせて設置し、Officeを始め、DTP専用のアプリケーションもセットアップして、データ持込みによるプリントアウトサービスを開始しました。フロッピーやMOディスクなどで学生がデータを持参し、店頭で微調整して出力ができ、大変に喜ばれました。導入した当時はフルカラーでプリントアウトできる店はなく、芸術専門学群や劇団系サークルの学生が頻繁に利用していました。

現在はコピーとの複合機を導入し、コピー、プリントアウトともにA3サイズまで料金共通のモノクロ5円、カラー20円で提供しています。コンビニプリントよりも安く、PCから直接すぐにプリントできるため、プリンターを持たない学生の力強い味方となっています。

■ 大判プリント

プリントアウトサービスの一環として、2010年より大判プリントサービスを始めました。A1サイズを普通紙にてプリントした場合は700円と、格安にて提供しています。用紙は安価な普通紙と、高画質用の厚口コート紙の2種類を用意しています。芸術専門学群の学生の課題提出の際や、サークル公演のポスター、学園祭実行委員会の看板など、さまざまな場面で利用されています。

大判プリンター本体は、芸術専門学群の学生にも満足してもらえるように高性能な機器を導入しています。12色インクを使用し、解像度も2400dpi×1200dpiと高精細である



新入生歓迎祭にて、サークル勧誘のポスターに見入る新入生

ため表現力豊かです。なお、大判プリンター本体やメンテナンスの費用は紫峰会が負担しており、料金には含まれておりません。そのため、筑波大学近隣で同サービスを提供しているお店よりも廉価になっており、この価格差が学生への還元となっています。

大判プリンター導入以前、学生たちはA1サイズのポスターを作成する際、A3用紙に9分割して出力し、張り合わせていました。作業も大変で、完成物の見栄えもあまり良くありません。また、最近ではWEBから注文できる大判印刷の会社も増えてきましたが、最低注文枚数や納期、送料の問題など学生が気軽に利用するにはハードルが高い場合が多いようでした。こうした学生の苦勞を少しでも軽減しようと、大判プリンターを導入することにしました。実際にサービスを始めてみると予想以上の反響に大変驚いています。

UTshop追越店に導入した大判プリンターは、定型サイズの場合にはA1サイズまでとなりますが、幅が59.4cmのロール紙を用いているので、長さは3メートル程度までなら伸ばすことができます。この特徴を生かして、横断幕のような掲示物を作る学生も多く見られます。

一方で、A0サイズやそれ以上の出力を求められる場合には、A1サイズ2つに分割して出力し張り合わせてもらっています。分割のパターン（縦に分割や横に分割）を考えて値段を抑えたり、分割する切れ目を計算してデザインしたり、プリント時間をできるだけ少なくできるよう構成したりと、工夫を凝らした学生も多く見られます。

よく利用する団体は、大判出力用の団体独自のマニュアルを作成して担当で引き継ぎを行っているところも出てくるなど、学生生活の一部として、なくてはならないサービスとして定着してきています。



お客さんに開放しているPC



A1サイズのポスターをプリントアウト

Media Appearances

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(2014年7月～9月)

新聞記事一覧

	記 事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	教育2014上:本学は、留学生を増やすため、全国の大学で初の試み「キャンパス・イン・キャンパス」構想を進める	永田恭介学長	朝日(7.2)
2	中田由夫准教授らは、インターネットを利用した減量後の体重維持プログラムの効果を検証する研究を開始	中田由夫准教授(医学医療系)	日本経済(7.11)(8.10) 東京(7.11)読売(7.15)産経(7.22) 日刊工業(8.6)茨城(8.16)
3	末益崇教授、都甲薫助教らが、プラスチックなど安価な基板の上に大粒径ゲルマニウムの結晶皮膜を成長させる技術を開発	末益崇教授(数理工学系) 都甲薫助教(数理工学系)	日刊工業(7.10)
4	村谷匡史准教授らが、大人の胃がん患者の体内の組織で異常に働く遺伝子を発見	村谷匡史准教授(医学医療系)	日本経済(7.11)夕 日経産業(7.14)
5	附属病院は「経皮的カテーテル心筋凍焼灼術」という新たな手術方法を国内で実施し、成功させた	青沼和隆教授(医学医療系) 野上昭彦教授(医学医療系)	読売・日本経済(7.12) 常陽(7.14)
6	第55回国際数学オリンピックで、隅部壮さんが金メダル、大場亮俊さんが銀メダル、第25回国際生物学オリンピックで、石田秀さん、今野直輝さんが銀メダルを獲得	隅部壮(附属駒場高校3年) 大場亮俊(同3年) 石田秀(同3年) 今野直輝(同2年)	朝日・日本経済・産経・東京(7.13) 読売(7.13.15)東京・常陽(7.14)
7	取手市の病院に「筑波大附属病院取手地域臨床教育ステーション」を開設	松村明附属病院長 篠田雄一准教授(医学医療系)	読売・産経・常陽(7.17) 毎日(7.24)茨城(7.25)
8	門根秀樹助教らの研究チームは、人間の歩く動作の一部から感情が読み取れることを確認したと発表	門根秀樹助教(サイバニクス研究センター)	産経(7.21)
9	「筑波クリエイティブ・キャンプ」最終日。18組がビジネスプランを発表	永田恭介学長 森川亮(OB LINE社長) 山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター長 サイバーデザイン社長) 稲垣汎雄(知識図書3年)	日刊工業(7.23) 日本経済(7.24)日経産業(8.4)
10	本学が、米国と台湾に海外拠点を開設	筑波大学アーバインオフィス 筑波大学台湾オフィス	日本経済(7.25)朝日(7.30) 常陽(8.1)
11	本学が、スポーツマネジメント大学院「AISTS」(スイス・ローザンヌ)と連携協定を締結。国際的人材育成を目指す大学院「つくば国際スポーツアカデミー」を開講	永田恭介学長 真田久体育専門学群長 嘉納治五郎元高等師範学校長 つくば国際スポーツアカデミー	毎日・読売・日本経済・産経・東京・茨城(7.27)産経(8.5)
12	第38回全国高校総合文化祭(いばらき総文)開催。新聞部門は、本学大会館が主会場。参加校の新聞部員1グループが本学で取材活動	大会館	読売・常陽(7.29)
13	国際化学オリンピックで、森田峻平さんが銀メダル	森田峻平(附属駒場高校3年)	読売(7.29夕.30) 日本経済(7.29)夕毎日(7.30)
14	本学は、9月から高校生を対象とする理系人材育成プログラム「筑波大学GFEST」を開始	永田恭介学長 有田智一教授(システム情報系)	毎日(8.6)茨城(8.10)常陽(8.19)
15	本学附属学校の取り組みを手本に、都が推進校300校で五輪教育を開始	真田久体育専門学群長	フジサンケイビジネスアイ(8.9)
16	サイバーデザインが、川崎市に国際先進医療開発拠点を設立 ロボットスーツ「HAL」を世界200施設がリハビリに活用	山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター長 サイバーデザイン社長) サイバーデザイン	日本経済(8.9) 毎日(8.10)日経産業(8.12)
17	「宇宙技術プロジェクトSTEP」が小型衛星制御の大会で、世界初のミッションに挑戦	秦健太郎(応理3年)	産経(8.12)
18	後藤博正准教授が、金属色に輝く導電性ポリマーを開発	後藤博正准教授(数理工学系)	日刊工業(8.14)
19	吉武博通教授「大学改革が急務」	吉武博通教授(ビジネスサイエンス系 大学研究センター)	毎日(8.16)
20	藻類を大量培養してバイオ燃料を取り出す研究が加速している	渡邊信教授(生命環境系)	日本経済(8.17)
21	国際地理オリンピックで、中野響己さんが銀メダル	中野響己(附属駒場高校2年)	朝日・毎日・産経・東京(8.20) 読売(8.19夕.20)日本経済(8.19)夕
22	対談「ヤンキーにご用心」上・中・下:斎藤環教授と西原理恵子氏の対談	斎藤環教授(医学医療系)	東京(8.19夕.20.20夕.21)
23	本学で、女子中高生対象に、「夏休みサイエンス体験合宿」開催	庄司一子教授(人間系) 石川香助教(生命環境系)	読売(8.23)
24	千葉親文准教授らのグループがイモリの網膜再生メカニズムを解明	千葉親文准教授(生命環境系)	日本経済・日経産業(8.26)
25	守友浩教授らは、有機薄膜太陽電池の性能向上に役立つと期待される、有機被膜太陽電池での電荷生成効率の決定方法を確立	守友浩教授(数理工学系)	日刊工業(8.26)
26	星野聖教授らは、手首につけた小型のカメラで撮影し、指の細かい動きを正確に認識する技術を開発	星野聖教授(システム情報系)	日経産業(8.28)
27	柔道世界選手権男子団体金メダル。81kg級永瀬貴規が、個人戦の金メダリストを破る活躍	永瀬貴規(体育3年)	朝日・毎日・読売・茨城(9.1)
28	宮崎修一教授が第25回「つくば賞」を受賞	宮崎修一教授(数理工学系) 江崎玲於奈元学長 白川英樹名誉教授	毎日・読売・産経・茨城・常陽(9.3)朝日(9.4)
29	陸上日本学生対抗選手権 本学女子6年連続24度目の優勝 1位記録【男子】[走幅跳]嶺村鴻汰 [ハンマー投]保坂雄志郎 [3000m障害]津田修也 [走高跳]衛藤昂 【女子】[ハンマー投]勝山眸美 [七種競技]松原恵 [走幅跳]中野瞳 [4×400mリレー]伊藤明子、松田絵梨、松原恵、神保祐希 [やり投]久世生宝 [棒高跳]榎本優子	嶺村鴻汰(体育4年) 保坂雄志郎(人間総合 体育1年) 津田修也(体育3年) 衛藤昂(人間総合 体育2年) 勝山眸美(体育2年) 松原恵(体育2年) 中野瞳(人間総合 体育2年) 伊藤明子(体育1年) 松田絵梨(人間総合 体育2年) 神保祐希(体育1年) 久世生宝(体育2年) 榎本優子(人間総合 体育1年)	朝日・産経・東京(9.8) 毎日(9.7.8)読売(9.6.7.8)
30	選手育成拠点「つくばアスリートラボ」開設	西嶋尚彦教授(体育系) 安藤梢(人間総合 体育3年) 熊谷紗希(体育4年) 猶本光(体育3年)	毎日(9.11)

テレビ放送一覧

	内 容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	腎臓の働きと慢性腎臓病の症状や治療	山縣邦弘教授(医学医療系)	NHK Eテレ 「きょうの健康」(9.1～4)
2	本学の取り組むオリンピック教育と異文化コミュニケーションの授業風景	江上いずみ非常勤講師	NHK総合 「ニュースウオッチ9」(7.28)

※所属、職名、学年は2014年9月現在

Event calendar

10 october

- 1日(水) 秋学期授業開始
開学記念日
第2次選考「ACI期、国際科学オリンピック、
国際バカロレア」(~15日)
- 6日(月) JSTさくらサイエンスプログラム
上海中学来訪(~10日)
- 13日(月) 筑波みらいの会総会
- 16日(木) 入学試験「大学院(10月期)」(~24日)
- 17日(金) タジキスタン・日本学生フォーラム(~18日)
- 22日(水) 合格発表「ACI期、国際科学オリンピック、
国際バカロレア」
学長主催外国人留学生懇談会
- 25日(土) 全学停電(~26日)

11 november

- 1日(土) 学園祭(~3日)
- 2日(日) ホームカミングデー
- 6日(木) 合格発表「大学院(10月期)」
- 10日(月) 3共同研究拠点合同シンポジウム(~11日)
- 15日(土) 秋季スポーツ・デー(~16日)
- 27日(木) 入学試験「推薦/帰国生徒(体・芸)」(~28日)

12 december

- 1日(月) 平成26年度学位記授与式(11月期)
- 10日(水) 合格発表「推薦/帰国生徒(体・芸)」
- 16日(火) 秋ABモジュール期末試験
(23日分繰上げ)
- 22日(月) 秋ABモジュール期末試験
(~26日)
- 27日(土) 冬季休業(~1/4)



筑波大学
University of Tsukuba